

シナリオ・日立爆裂アワー
【棒つき人形劇・冒険@アナログ島】
決定稿・イワモトケンチ

一九九六年三月十七日放映【パソコンは悪魔だの巻】

§一 縮小版・全景（明け方〜日の出）

（F・I）

音楽が始まる。
流れ始めるキャスト・タイトル。
海の上にポツンと浮かぶアナログ島。
対岸には夢のパラダイス・デジタル大陸が見える。
カメラはアナログ島を手前にしてデジタル大陸をとらえている。
明け方の暗い空。デジタル大陸のにぎやかな街のネオンが見える。花火が上がり、暗い空に光が広がる。
太陽が昇り、明るくなる空。
カメラは一度、クレーン・アップした後、島に接近していく。
音楽、盛り上がって行く。
約二十五秒。

（O・L）

§二 実写・番組タイトル

切り文字CGによる変な動きのメイン・タイトル。
日立爆裂アワー
『人形劇・冒険@アナログ島』
『パソコンは悪魔だの巻』
音楽、更に盛り上がり。
約六秒。

（O・L）

§三 メイン・ストリート（朝）

カメラは前カットと同じスピードで移動し、立っているビットをとらえる。音楽は“歌もの”であることがわかる。ビットの

『わたしはアナログっ子』が始まる。

【歌一】

わたしはアナログ島生まれ
とてもステキな島なの
ホテルも、カフェも、花屋も、
みんなアナログなの
ややこしいルールもないし
分厚いマニュアルもないし
そのくせなんでも揃ってるの…

（約六〇秒）

ビットは歩きながら歌い、カメラもその動きに従う。

花屋前では花屋の女主人とトランクを持った娘が店先で何やら口論している様子。

カフェの前では開店準備をしている主人がビットに手を振る。

ホテルの前では主人が入口を掃除している。照れ臭そうに手で合図をする主人。

網を持った漁師が手を振りながらビットを追い越して行く。

ビットの前方に旧教会が見えてくる。その前に立って手を振る、ウェブとマウス。

ビット、ウェブとマウスの所に走る。並ぶ三人。音楽、終了する。

（F・O）

§四 旧教会の前（朝）

廃墟となつてゐる旧教会の前に背中を向け
て立つてゐる、ビットとウエブとマウス。

ビット、振り向いてカメラ目線になる。

照明がビットのみのピンスポットに変わり、
背景は全て黒となる。

ビット 「わたしの名前はビット。このお話の主人公」

一旦照明戻る。

ウエブ、振り向いてカメラ目線になる。

照明がウエブのみのピンスポットに変わり、
背景は全て黒となる。

ウエブ 「ぼくの名前はウエブ。島一番のノツポさ」

一旦照明戻る。

マウス、振り向いてカメラ目線になる。

照明がマウスのみのピンスポットに変わり、
背景は全て黒となる。

マウス 「ぼくの名前はマウス。島一番の太っちよさ」

照明、戻る。

ビット 「ねえ！ウエブ。昔、ここは（廃墟を指し）な
んだつたか知ってる？」

ウエブ 「（首を傾げて）知らない！」

ビット 「マウスは？」

マウス 「（首を傾げて）僕たちいつもここで遊ん
でゐるのにわからないよ……」

ビット 「（偉そうに）ゴホン。じゃあ教えてあげ
るわ。えー。ここには昔、教会が建つてい
ました」

ウエブマウス「教会……」

振り向いて廃墟を見る、二人。

ウエブ 「そう言われてみると教会のような……」

ビット 「わたしたちが生まれる前の話よ。それで

ね。ある日、教会の燈をささえていた柱が
折れてしまつてたくさんの人が下敷きにな
つて死んでしまつたの。牧師さんも一緒に
ね。それからというものこの島には教会が
ないのよ……」

ウエブマウス「（妙に納得する二人）へー……」

港から聞こえる汽笛の音。
(手動ワイプ)

＃五 港（朝）

“ 98 汽船 ” と書かれた客船が停泊している。
先程の花屋の女主人とその娘が立っている。

花屋の女主人 「お前は本当に親不幸な娘だよ（泣く）」

女主人、急にカメラ目線になる。

照明が女主人のみのピンスポットに変わり、
背景は全て黒となる。

花屋の女主人 「わたしは花屋の女将さん。女手ひとつで

切盛二十年」

照明、もどる。

カメラ、娘の正面へ移動。カメラ目線で。

照明が娘のみのピンスポットに変わり、背
景は全て黒となる。

娘 「わたしは花屋の娘。ママと別れてデジタ

ル大陸に旅立つの」

照明、もどる。芝居にもどる、娘。

「ママ。そんなに悲しまないで。わたしは
幸せになるために旅にでるのよ。デジタル
大陸に渡ってパソコンが使えるようになり
たいの。パソコンが使えれば世界はバラ色
なのよ！ママ」

花屋の女主人 「わたしにゃチンペンカンペンだよ：父さ

んが教会の事故で死んでしまっからとい
うもの、どんな気持ちでお前を女手ひとつ
で育ててきたか、わかっているのかい！」

娘 「もちろん感謝してるわ、ママ。だからデ

ジタル大陸に行っって一流のパソコン使いに
なっって：」

花屋の女主人 「それが親不幸だっって言ってるんだよ！」

娘 「わたしが一流のパソコン使いになったら
ママを迎えに戻るわ！そして一緒にデジタ
ル大陸で幸せに暮らしましょうよ、ママ」

(F・O)

第六 縮小版・全景 (朝)

港の風景の全景。

遠くに見えるデジタル大陸。

汽笛の音。

女主人の声「わたしやもうこの歳だからね：あんな恐ろしい大陸になんかには：」

(F・O)

第七 港 (朝)

男の声 「船が出るぞー」

娘、反応して振り向く。

娘 「じゃあ：行くわ：」

花屋の女主人「：だ：だめだよ。デジタル大陸に行ったらひどい目にあうに決まってるんだから」

娘 「わたしは大丈夫よ、ママ」

花屋の女主人「大丈夫じゃないんだよ！とんでもないことに巻き込まれるんだよ！」

娘 「さよなら。ママ」

娘、98汽船に乗り込む。

娘 「すぐに迎えにくるわ！ママ」

花屋の女主人「フローラ！」

汽笛が鳴る。汽笛で花屋の女主人の言葉がかき消される。

ゆっくりと動き出す、98汽船。

取り残される母。

娘が歌う『希望の船出』が始まる。

【歌二】

(約六〇秒)

踊りながら歌う、娘。

取り残される母。

遠ざかる98汽船。

(F・O)

第八 旧教会の前（朝）

遠ざかる汽笛の音。

三人、海の方を見つめている。

「：98汽船か：」

マウス
ウエブ
「（しみじみと）：みんないなくなっちゃ
うなあ：」

ビット
「もう島に若い人がいなくなってしまうわ
：わたし、悲しい」

マウス
「デジタル大陸は楽しそうだからね。みん
なが行きたくなっちゃうのもわかるけど」

ウエブ
「マウス！まさか：お前もデジタル大陸に
いっっちゃうつもりなのか？」

マウス
「う、うん：ぼく、迷ってるんだ：今度の
タウンズ汽船に乗ろうかなあ：なんて：」

ウエブ
「う、裏切り者！」
ウエブ、怒ってマウスを突き飛ばす。

マウス
ウエブとマウス小競り合いが始まる。
「やめろよ」

ウエブ
「どうしてぼくに相談しないんだ。親友じ
やないか。ぼくたち」

ウエブ、マウスの胸を強く押す。
よろめく、マウス。

マウス
ウエブ
「やめろよ！押すなよ。痛いよ：」
「えい！」

ビット
もう一度マウスを押す、ウエブ。
「待って！こんな時はモートルさまに相談
するのが一番だわ！」

ウエブ
ウエブとマウス、小競り合いをやめて。
「モートルさまか：」

マウス
「それはグッドアイデアだ！」
マウス、右手を高く上げる。

（F・O）

第九 花屋の前（昼）

肩を落として帰ってくる、花屋の女主人。
その様子を見ている、カフェの主人。
花屋の女主人に近づく、カフェの主人。

カフェの主人「船は出ましたか？」

カフェの主人、急にカメラ視線になる。
照明がカフェの主人のみのピンスポットに
変わり、背景は全て黒となる。

カフェの主人「私はカフェの主人。私のカフェはアナログ島の憩いの場所。私のカフェはアナログ島の
談話室」

照明、戻る。

花屋の女主人「（元気なく）ええ…」

カフェの主人「また、行ってしまったか…（ため息）」

花屋の女主人「（泣き出す）」

カフェの主人、近づいて優しく肩を抱く。

カフェの主人「まあ、残った者同士で力を合わせてがんばりましょうよ。奥さん」

花屋の女主人、カフェの主人を見つめる。

花屋の女主人「うちの娘はデジタル大陸でひどい目にあったわ…」

カフェの主人「若い人は経験しないとわからないんですよ、奥さん。我々だってそうだった。若い頃の失敗の積み重ねで賢くなってきたじゃないですか」

花屋の女主人「だから、わたしや心配なんだよ…」

カフェの主人「娘さんを信じてあげなさいよ。心配だろうけど…」

花屋の女主人「…そうしたいけど、デジタル大陸はとも恐ろしいところだから…」

カフェの主人、花屋の女主人の肩をたたきながら。

カフェの主人「おたくの娘さん、ああ見えてもけっこうしっかりしてるよ。大丈夫だよ！」

花屋の女主人、小首を傾げる。

花屋の女主人「…でも…ミィーハーだからねえ…ほんとうに心配だよ…」

(手動ワイプ)

§10 丘の道(昼)

軽快な音楽。

ビット、ウエブ、マウスの三人が楽しそうに丘の道を登って行く。

ビット、大きな木の前で突然、立ち止まる。音楽、止まる。

ビット

「ねえ。この木、なんだろう？」

ウエブとマウス、木を見上げる。

ウエブマウス「これはイタチの木だよ」

ビット 「イタチ？」

(手動カレード)

§11 提供・この樹なんだろう？A

日立の「この樹なんだろう、気になる樹」の歌が始まる。

木の横に立っている、ビット、ウエブ、マウス。

次々と島民たちが登場して木をまわりでやけに楽しそうにしている。ヤラセ風。

流れる続ける『この番組は日立の提供でお送りいたします』

約三〇秒。

(F・O)

§12 モートル家・前(夕)

(F・I)

丘の上にポツンと建つ小屋のような家。

小屋の煙突からモクモクと煙が出ている。

その前にモートルを囲むように立っている若者三人。

ビット

「モートルさま。おたずねしたいことがあります」

モートル 「知らずは人に問えじゃ」

モートル、急にカメラ目線になる。

照明がモートルのみのピンスポットに変わり、背景は全て黒となる。

ビットの声 「モートルさまはアナログ島一番の哲学者。人生に迷った時はモートルさまに尋ねるのが一番。モートルさまは何でも知っている。モートルさまはアナログ島の校長先生」

照明、もどる。

ビット 「このままではアナログ島の若い人はみんなデジタル大陸に渡ってしまいます」

ウエブ 「みんなを引き止める、よい方法はありませんか？モートルさま」

モートル 「：人生のゆうべはそのランプをたずさえておるぞ」

マウス 「（考えて）うちにもランプはあると思っ
けど：」

モートル 「混ぜもののないパンは非常によい」

マウス 「カレーパンは邪道なんですか？」

モートル 「しかし、誘惑となるものはバターである
のじゃ」

マウス 「：バター？」

ウエブ 「：バター？」

ビット 言っていることがわからず、考え込む三人。

「モートルさま。難しくてわたしたちにはわかりません。もっと簡単なお言葉でお願いします」

モートル 「（うなづいて）人は生まれ、苦しみ、そして死ぬのじゃ」

三人 「そんな！」

モートル 「人は生まれ、苦しみ、そして死ぬのじゃ」

三人、じつとモートルを見つめている。

モートル、歩き出して小屋の裏に消える。

「モートルさま！」

（F・O）

§ 一三 港（タ）

漁から帰ってきた漁師が小舟からも降りる。漁師、急にカメラ目線になる。

照明が漁師のみのピンスポットに変わり、背景は全て黒となる。

漁師 「おいらは漁師だぜ。今日の仕事はもう終いだ。おれたちや自然の恵で生活していいだ。山と川と海に感謝するぜ。あとはカフェに行つてビールだ！ビール！これだから人生やめられない。ビバ、ノンノンてか」
照明、戻る。

漁師、メイン・ストリート方向へ歩き出す。
（手動ワイプ）

§ 一四 ホテルの前（タ）

ホテルの前に立っている、ホテルの主人。ビットが走つて帰ってくる。

ビット 「ただいま。パパ」

ホテルの主人 「おかえり、ビット」

ホテルの主人、急にカメラ目線になる。

照明がホテルの主人のみのピンスポットに変わり、背景は全て黒となる。

ホテルの主人 「私はビットのパパ。二代目ホテルのオーナー。他のアナログ島の人はちよつとセンスが違う。なぜなら私はパリ帰りですから。はい！ボンジュール」

照明、もどる。

ビット 「モートルさまのところに行ってきたの」

ホテルの主人 「おお、そうか。モートルさまはお元気だったか？」

ビット 「ええ。とつても」

ホテルの主人 「また、何を相談してきたんだい？」

ビット 「みんながずっとアナログ島で暮せる方法をお聞きしたの」

ホテルの主人「それで？モートルさまはなんと？」
ビット「人は生まれ、苦しみ、そして死ぬんです
って」

ホテルの主人「それはまた重いお言葉だね」

ビット「どういう意味なの？パパ」

ホテルの主人「(笑って)さあ？」

ビット「パパにもわからないの？」

ホテルの主人「人はいずれ死ぬから今を精一杯生きなさい
ということ、かな？」

ビット「精一杯？」

ホテルの主人「みんなが精一杯生きていればそれでアナ
ログ島は楽しくなねからね」

ビット「そうか！わかった。ありがとう。パパ」

ビット、パパにキスする。

パパ、オーバーに驚く。

ホテルの中に走って入って行く、ビット。

(手動カレード)

§一五 縮小版・全景 (夕〜夜)

夕日は夜になりる。

満月。静かな海。

ピアノ曲。

(F・O)

§一六 ホテルの前(夜)

ホテルの前に立っている、ホテルの主人。

ビットがホテルから走って出てくる。

ビット「パパ、ちよつと出かけてくわ」

ホテルの主人「こんな時間に一体、どこに行くんだい？

ビット」

ビット「港に行つて考え事してくるの」

ホテルの主人「考え事？」

ビット「アナログ島の将来についてよ！パパ」

ホテルの主人「アナログ島の将来？それはまた随分と大
ごとだね。ビット」

走って出て行く、ビット。

ビット 「いつてきまーす」

ホテルの主人 「ははは (笑う) できるだけ早く帰るんだ

よ！ビット」

ビット 「はーい」

(手動カレード)

第一七 カフェ・店内(夜)

カウンターの後ろに旧型チャンネル式テレビがある。

電気小売り店のコマールが連発されている。かすかに聞こえる音声。

カウンターに立っている主人のまわりに漁師、ホテルの主人。花屋の女主人がスタンディングでビールを飲んでいる。

カフェの主人 「：去年の十一月二十三日のウインドウズ号はひどかったなあ：」

ホテルの主人 「島の若者はあれで根こそぎでしたからね」
漁師 「考えてみりや、あれだ。ア、アップル：

海運なんて大したことなかったんだな。最初はびびったけど、よう」

カフェの主人 「それにしてもウインドウズ号は恐ろしくバカでつかかったねえ：」

花屋の女主人 「夜中の出発なのに港はお祭り騒ぎ：わたしにやわかんないよ。ああいうの」

漁師 「土台、デジタル大陸なんてよう、人間の住むところじゃねえや。いちいちデジタルでビリビリ感電しちまうぜ。まったく」

ホテルの主人 「デジタル大陸ではゼロとイチしか存在しないと言いますか」

カフェの主人 「ゼロとイチで全部、勘定するのかい？」
漁師 「ラッキーマシンはどうすんだい！ラッキ

ーマシンじゃ感じでねえぜ」

花屋の女主人 「そしたらあたしやいったい何歳だい？」
漁師 「まったく。なんなんだ！」

花屋の女主人「いやだよ。気が狂っちゃまうよ。そんなところ」

(手動ワイプ)

◆一八 港(夜)

ビットも夜空を見上げている。

ビット
「大きな月。ふつてきそうな星。青く透きとおった海。生きている木々。豊富な魚や可愛いらしい動物たち。どうしてみんなこんな素敵なアナログ島を捨ててしまうの？」
(手動ワイプ)

◆一九 旧教会の前(夜)

ウェブとマウスが旧教会の前に座ってポロロとしてる。

マウス
「：たいくつだなあ：」
ウェブ
「：カフェに行くか」
マウス
「夜になると行くとこカフェしかないもんな」
ウェブ
「そういえばそうだな：」
マウス
「デジタル大陸でどんなとこなんだろうね、ウェブ。なんかやけに楽しそうだけど：」
ウェブ
「またそんなこと言うのか！マウス！今度言ったら絶交だぞ」
マウス
「(ウェブをチラリと見て)：だけど：ウェブ、君だつて少しは興味があるんだろ？」
戸惑う、ウェブ。
マウス
「パソコンがあればなんでも簡単にできるつて言うじゃないか」
ウェブ
「なんでも簡単に？」
マウス
「いろんな事を勝手にやってくれるらしいんだ：」
ウェブ
「例えば？」
マウス
「例えば：？：(考えて)よくわからないけど：朝、起きたらコーヒー入れてくれたりとか、疲れている時は肩たたきとか：」

ウエブ 「（驚いて）え？肩たたき？」

マウス 「わかんないけど、お金貸してくれたりと
か！」

ウエブ 「（更に驚いて）お金まで貸してくれるの
か？すごいじゃないか！」

マウス 「いや：わかんないけど：」
（手動ワイプ）

§10 カフェ・店内（夜）

カウンターの後ろに旧型チャンネル式テレビがある。

電気小売り店のコマーシャルが連発されている。かすかに聞こえる音声。

カウンターに立っている主人のまわりに漁師、ホテルの主人。花屋の女主人がスタンディングでビールを飲んでいる。

カフェの主人「あのパソコンでいうの？あれやってると
脳みそがとけちゃうらしいね」

花屋の女主人「（驚いて）大変だ！娘の脳みそがとけち
まうよ！」

漁師 「おう。ニュースの時間じゃねえか！」
全員、テレビに視線を移す。

TVの音声「（時報）デジタル大陸ニュース！」

§11 テレビの画面（夜）

ニュースキャスターがニュース原稿を読んでいる。

キャスター「本日、午前十一時頃、デジタルバレー地域で突然、停電が起こり、かなりのデータが消滅した模様です。デジタル電力は現在事故原因を調査中ですが、詳しい原因は不明です。この事故による損害は五〇兆ドルを越える見込みです。次のニュースは：」

§ 三三 C M

日立ニュースが連発される。
(F・O)

§ 三三 カフェ・店内(夜)

カウンタ―に立ってテレビを見ているカフェの主人、漁師、ホテルの主人。花屋の女主人。

カフェの主人「…なんの話だっけ？」

ホテルの主人「脳みその話です」

花屋の女主人「(驚いて) そうだよ! 大変なんだよ! 娘の脳みそがとけちまうんだよ!」

漁師 「目もイカれるらしいじゃねえか」

花屋の女主人「目もとけちまうのかい!」

ホテルの主人「おまけに肩凝りがひどくなってるある日突然、肩が脱臼するらしいです」

花屋の女主人「えー! そんなの聞いてないわよ! やっぱりあの子、行かせなきゃ良かったよ(泣き出す)」

気まづい空気になる。

(手動ワイプ)

§ 三四 モートル家・前(夜)

夜空を見上げる、モートル。

モートル 「(ぶつぶつと) …眉毛に火がつき…お蔵も火がつくぞ…」

(F・O)

§ 三五 縮小版・全景(夜)

満月。静かな海。

遠くに動く潜望鏡がかすかに見える。

不吉な音楽が始まる。

(O・L)

㊦二六 潜水艦・艦内（夜）

激しい登場の音楽。
潜望鏡をのぞいていた謎の男・フォートランがこちらを向く。
フォートラン、急にカメラ目線になる。
照明が漁師のみのピンスポットに変わり、背景は全て黒となる。

フォートラン「私の名前はフォートラン。謎の男。デジ

タル大陸から潜水艦でやって来たですぞ。
このアナログ島をのつとるためにです。あ
ははは」

照明、もどる。

フォートラン、再び潜望鏡をのぞく。

フォートラン「…なるほどのんきそうな島だ。私のリサ
ーチに間違いはなかったようだ。あはははは。
ワクワクして笑いがとまらないわい」
（パーン）

㊦二七 港（夜）

近づく潜水艦に気づき、強く反応する、ビット。

ビット「あれは！なんだろう？」

（パーン）

㊦二八 海（夜）

潜望鏡が回転しなから近づいてくる。

フォートラン「ようし！超猛スピードでアナログ島に突
入だ！」

スピード上げてアナログ島に近づく潜水艦。
（パーン）

㊦二九 港（夜）

ビット、身乗り出して潜望鏡方向を見る。

ビット「せ、潜水艦じゃないの！」

(F ・ O)

§III 旧教会の前(夜)

ウェブとマウスが旧教会の前に座っている。
マウス 「：やっぱりお金は貸してくれないかも：」
ウェブ 「え？そうなの？」
マウス 「それならみんなお金持ちになっちゃうじゃないか。それはちよつと都合が良すぎるからね：わかんないけど：」
ウェブ 「なあ、マウス。：本当はデジタル大陸のこと、全然知らないじゃないのかい？」
マウス 「(動揺して)え？：あ、というか：」
ウェブ 「知ったか振りをしてるだけなんだろう？」
マウス 「(困っている)：え：あいや：」
ウェブ 「本当のこと言えよ。親友じゃないかぼくたち」
マウス 「(困っている)：う、うん。本当はそうなんだ：さっき言ったことは：ぼくの想像なんだ：」
ウェブ 「じゃあ、本当のところはわからないのかい？」
マウス 「うん。：聞きたくてもみんなデジタル大陸にいるからね。想像するしかないじゃないか。おまけにこのアナログ島にはパソコンなんてありやしないし、さ：」
ウェブ 「じゃあ、本当に便利かどうかはわからないんだね」
マウス 「そうだね。みんなも想像で便利らしいと思いついてデジタル大陸に渡ったんだろうけど：」
(手動ワイプ)

§III カフェ・店内(夜)

漁師

あいかわらずのメンバー。
「：ったく！デジタル大陸ときたらロクな

ことねえや！」

花屋の女主人「デジタル大陸に行こうとする人がいたら
わたしや断固引き止めるよ、いけにえは娘
だけで充分だよ」

カフェの主人「(ホテルの主人に向かつて)：次はおた
くの娘さんなんかアブないんじゃないの？」

ホテルの主人「私の家ではしっかりと教育をしています
ので、絶対にそんな馬鹿なこととはしません」

花屋の女主人「馬鹿なこと？それじゃあうちの娘が馬鹿
みたいじゃないか！」

ホテルの主人「失礼。：そういう意味ではなくて：です
ね：(困る)」

花屋の女主人「じゃあ、どういう意味なんだい？」
漁師 「おいおい。喧嘩はよさねえか」

ホテルの主人、掛け時計を見上げる。
ホテルの主人「そろそろ。私は戻らないと：」

入口方向へ歩き出す、ホテルの主人。
花屋の女主人「都合が悪くなるとすぐ逃げるんだよ。こ
の人は」

ホテルの主人「違いますよ。今夜はお客さんがあるんで
す。チェックインの時間なんでね」

カフェの主人「お客さん？どこの人だい？」
ホテルの主人「デジタル大陸の人らしいです」

全員 「デジタル大陸？」
漁師 「どうせ落ちこぼれだぜ。へっ！」

カフェの主人「デジタル大陸の落ちこぼれか。こりゃい
いや！ハハハ」

全員 「(笑う)」
ホテルの主人「それでは。みなさんごきげんよう」

挨拶して出で行く、ホテルの主人。
(手動ワイプ)

§§§ 港(夜)

潜水艦が海から姿を現す。
ハッチがパカリと開き、中からフォートラ

ンが出てくる。

様子をうかがう、フォートラン。

フォートラン「ようし。誰もいないようだ。怪しまれたら大変だからスピーディーに降りてスピーディーに潜水艦を隠すぞ。ホテルだって一週間前に予約を入れたから大丈夫だぞ：あははは：」

フォートラン、超猛スピードで潜水艦から降りて。潜水艦を隠す（五倍速）。
メイン・ストリート方向へ歩き出す、フォートラン。

（パーン）

§三三三 港・看板の陰（夜）

あわてて看板の陰に隠れる、ビット。

ビットの目の前を通過するフォートラン。

ビット「（息を弾ませて）あぶないあぶない。見つかるところだったわ。だけどあの男すごく怪しいわ。だれでしょう：」

（パーン）

§三三四 港（夜）

潜水艦から降りたフォートラン、メイン・ストリート方向へ歩き出す。台車に乗せた大きな荷物。

フォートラン「ホテルはこっちだな。精密機械を積んでいるので慎重に運ばなくてはいけないぞ。おっと！危ない」

台車が揺れてあわてて荷物を押さえる、フォートラン。

再び歩き出す、フォートラン。

ビット、尾行を開始する。

（O・L）

§三十五 メイン・ストリート（夜）

台車を押しながら歩く、フォートラン。尾行する、ビット。

フォートラン、閉店している花屋の前で立ち止まる。何を思ったか花屋の壁に耳をあてる。

その様子を見ている、ビット。

ビット 「何をしているんでしよう。ますます怪しいわ。あの男：」

再び歩き出す、フォートラン。

尾行を続ける、ビット。

カフェの前で立ち止まる、フォートラン。中をのぞく。しばらくのぞいた後、「ウツシシシ」と笑う。

フォートラン 「こりゃあ笑いが止まらんわい。ウツシシシ：」

その様子をうかがう、ビット。

ビット 「どうして笑いが止まらないのかしら：」
首を傾げながら同じようにカフェの中をのぞく。

ビット 「カフェのご主人に漁師さんと花屋の女将さん：いつもとかわらないはずなのに：」
フォートラン、ホテルに入って行く。

ビット 「あ。うちのホテルに入ったわ！」
ビット、慌てて後を追う。
（手動ワイプ）

§三十六 カフェ・店内（夜）

ホテルの主人がいらないだけであいかわらずの店内。

ウエブとマウスが入ってくる。

二人、入口で立ち止まる。

ウエブ 「今のビットじゃないか？」

マウス 「随分と慌てていたみたいだけど：どうし

「たんだろう？」

カフェの主人「いらっしやい」

振り返る、二人。

ウエブマウス「こんばんわー」

店内の人々「こんばんわ」

ウエブとマウス、カウンター手前のテーブルに座る。

ウエブ「マスター。ピーチ・フィズください」

マウス「えーと、僕はピンク・シヤワシヤワ」

カフェの主人「あいよ」

マスター、カクテルをつくり始める。

漁師「おまえたちもあれか？デジタル大陸に行

きたい口か？え？」

ウエブ「いえ：（口籠る）」

マウス、ウエブの後ろに隠れる。

漁師「やっぱりそうか！」

ウエブ「いえ：ぼくたちは：」

「おう。デジタル大陸なんて、そんなもんに不便に決まってるんだぜ。大体、神様に逆らってるんだから、いつかバチが当たるに決まってるらしい。悪いこと言わねえからやめとけやめとけ。（強制的に）な！」

ウエブマウス「（しかたなく）：はい」

花屋の女主人「本当にお願いだからあんたたちは行かないですよ。パソコンやると脳ミソがとけるらしいのよ（泣く）」

ウエブマウス「ええっ！脳みそがっ？」

(F・O)

§三七 実写・ホテル・フォートランの部（夜）

ドライバーを回す、フォートランの手。

壁にある電話のソケットが外れる。

電話線を抜き出す。

自前のケーブルを電話線に接続する。

フォートラン「これを外して。電話線をひっぱり、私の

マシーンに直結すると……」
(O・L)

§三八 ホテル・フォートランの部屋（夜）

フォートラン、机の上にラップトップらしきものをセットする。
スイッチを押す。
立ち上がるコンピュータ。
キーボード入力を開始。

フォートラン「…テレビ電話のできあがりと！」

§三九 ホテル・フォートランの部屋・前（夜）

ドアに耳をあてて盗み聞きしているビット。

ビット 「テレビ電話？」

(移動)

§四〇 ホテル・フォートランの部屋（夜）

テレビ電話している、フォートラン。

フォートラン「…アナログ島に到着した。今、へばいホテルからだ。アナログ島にはここしかホテルがないからしようがないんだがな…それにしてもへばいぞ」

(移動)

§四一 ホテル・フォートランの部屋・前（夜）

ドアに耳をあてて盗み聞きしている、ビット。反応する。

ビット 「ひどい！うちのホテルの悪口！許せない

わ！わたしのパパはパリ帰りなのよ！」

(移動)

§四二 ホテル・フォートランの部屋（夜）

テレビ電話で。

フォートラン「…本題に入るぞ。アナログ島のつとり計画の件だが、意外と簡単にことが運びそうだ」
(移動)

§四三 ホテル・フォートランの部屋・前(夜)

ドアに耳をあてて盗み聞きしている、ビット。反応する。

ビット 「アナログ島のつとり計画？ですって？」

(移動)

§四四 ホテル・フォートランの部屋(夜)

テレビ電話で。

フォートラン「…先程ちらりとカフェなどをのぞいたんだが、この島の奴らはかなりお間抜けそうだし…私の話術にかかれればちよんちよんのちよんちよんだ。笑いがとまらんぞ。あははは…」

(移動)

§四五 ホテル・フォートランの部屋・前(夜)

ドアに耳をあてて盗み聞きしている、ビット。反応する。

ビット 「(怒って)おまぬけですって！もー失礼しちやうわ！」

(移動)

§四六 ホテル・フォートランの部屋(夜)

テレビ電話で。

フォートラン「…それでは作戦その一をカフェで実行してくるぞ。また明日、連絡を入れる」

(移動)

§四七 ホテル・フォートランの部屋・前(夜)

ドアに耳をあてて盗み聞きしている、ビット。

ビット

「作戦その一をカフェで：？なんだろう？何をするつもりなんだろう？大変だわ：」

ドアが開く音。

ビット、慌てて別の部屋に隠れる。

台車に荷物を積んで出てくる、フォートラン。そのまま台車を押して出て行く。

別の部屋に隠れたビット、ドアの隙間から顔を出して出で行くフォートランを見ている。

(F・O)

♀四八 縮小版・全景(夜)

満月。静かな海。

流れ星。

ピアノ曲。

(F・O)

♀四九 カフェ・店内(夜)

台車を押して店内に入ってくる、フォートラン。人々、見知らぬフォートランを珍しそうに見る。

カフェの主人「(ひそひそと)：ありゃ、きっと例のデジタル大陸の落ちこぼれだね：」

フォートラン「カプチーノをくれ給え」

カフェの主人「あ、はいはい」

フォートラン、台車をテーブルの横に置く。

続いてテーブルにパソコンのセットイングを始める。

五人の島民たち、不思議そうに見守っている。

漁師 「なんだい？あの箱は」

マウス 「あれがパソコンというものじゃないですか？おそらく：」

漁師 「あれがパソコンってのかい」

花屋の女主人「大丈夫かねえ。脳ミソとけないかい？」

と言いながらカフェの奥へ逃げる、花屋の女主人。

マウス 「どうでしょう？」

漁師

といいながらマウスも奥へ逃げる。
「おいおい。なんだよ」

と言いながら一緒に奥へ逃げる。

ウエブも迷った後、逃げる。

フォートラン、マウスを取り出して接続する。

花屋の女主人「あのネズミみたいなのはなんだい？」

ウエブ 「（首を傾げて）さあ…マウス、おまえわかる

かい？」

マウス 「…何に使うんだらうね…」

パソコンを怖がっている、島民たち。

（手動ワイプ）

§五〇 ホテル・フォートランの部屋（夜）

ビット、部屋に潜入してフォートランの持ち物を調べている。

カバンを開ける。

三冊のファイルが出てくる。

それを取り出す、ビット。

一冊目のファイル。

『理想のアナデジ世界の建設計画くフォートラン』と表紙に書いてある。

ビットの声 「…理想のアナデジ世界の建設計画…フォートラン…なんのことでしよう…」

二冊目のファイル。

『アナログ島のつとり計画書くフォートラン』と表紙にある。

ビットの声 「アナログ島のつとり計画書…これだわ！」
三冊目のファイル。

『私のおもいでアルバムくフォートラン』
写真アルバムのようだ。

ビットの声 「…私のおもいでアルバム？…」

ぱらりと中から一枚の写真が床に落ちる。

床に落ちた写真…研究所らしき場所。大型コンピュータの前に立っているフォートランがピースしている。

ビットの声「いったい何者なのかしら…恐ろしいわ…」
(手動ワイプ)

＃五二 カフェ・店内（夜）

パソコンのセッティングを終了したフォートランが立っている。

フォートラン「こんばんわ。私の名前はフォートラン」
島民たちバラバラに「こんばんわ」を言う。

フォートラン「私は決して怪しい者ではありませんぞ。私はデジタル大陸からやって来ましたが…」
身構える、島民たち。

フォートラン「ご安心ください。私はみなさんの味方です。パソコンなんてケツ！ということのみなさんに伝えるためにはるばるやってきたのです」
島民たち、少し安心する。

カフェの主人、恐る恐るカプチーノを運び、フォートランのテーブルに置く。

フォートラン「ありがとう」
走って逃げ戻る、カフェの主人。

フォートラン「ははは。皆さん、パソコンがそんなに怖いのですか？」

島民たち、そろつてうなづく。
フォートラン「よろしい。ではパソコンなんてケツ！についてとても分かり易くご説明いたしましょう。そうしたらこんなもの何も怖くなくなるかと請合いですぞ」
(F・O)

＃五三 ホテルの前（夜）

ホテルの前に立つ、ホテルの主人。

ホテルの中から走ってくる、ビット。

ビット「たいへんよ。パパ」

ホテルの主人「どうしたんだい？ビット」

ビット「あの男、このアナログ島をのつとろうとしているの！」

ホテルの主人「あの男ってデジタル大陸から来られたお客様かい？ビット」

ビット 「ええ。そうよ。わたし、あの男の部屋に入っ
て見てしまったの。アナログ島のつとり計画と
いうファイルを！」

ホテルの主人「ビット！なんという事をするんだい！お
客様のお部屋にパパに無断で勝手に入るな
んて！」

ビット 「しかたなかったのよ。非常事態だったのよ。
パパ」

ホテルの主人「（怒って）理由はどうあれ、お前のやつ
たことはホテルの娘としてあるまじき行為
だよ。お爺様が生きておられたらどんなに
お怒りになられたことか！」

ビット 「わかってるわ、パパ。でもアナログ島が
のつとられるのよ！それにあの男、潜水艦
でやってきたのよ！」

ホテルの主人「そんなへたな嘘についてもだめだよ、ビ
ット。あの方は一週間も前に予約を入れて
お泊まりになっているんだよ。そんな方が
どうして潜水艦なんかで……」

ビット 「時間がないの！カフェに行ってみんなに
知らせてくる！ごめんなさい！パパ」
ビット、走り出す。

ホテルの主人「待ちなさい！ビット」
（手動ワイプ）

§五三 カフェ・店内（夜）

パソコンの前に座っている、フォートラン。
フォートラン「デジタル大陸に渡れば何でも楽になるか
と思ったが大間違いですぞ！何ひとつ楽に
なんかなっちゃあいないんだ」
島民たち、警戒しながらも真剣に聞いている。
フォートラン「トラブルの連続なんです。デジタル大陸
はちつともパラダイスなんかじゃないのです。

ここまではいいですか？分かりますね？皆さん」

島民たち、うなづく。

フォートラン「では本題に入りましょう。なぜ、パラダイスではないかについて。例えばです……」

§五四 実写・パソコン説明画面（夜）

モニターを中心に映し出している。

パソコン操作する手元。

フォートランの実写版の手。

フォートラン「……誰かの電話番号を調べて電話するといふ基本的な行為です。手帳の住所録から引くとパソコンから引くのとではどっちが早いですか？ご主人」

カフェの主人「あ……えー。パ、パソコンの方が早いんじゃないでしょうか……？」

フォートラン「そうですね。じゃあ。やってみましょう。

百聞は一見にしかずです。ご主人、手帳はお持ちか？」

カフェの主人「はい……」

カフェの主人の手、使い旧した手帳を取り出す。フォートラン「ええ。それで結構です」

画面は二分割されてフォートランの手元（パソコン）とカフェの主人の手元（能率手帳）となる。

フォートラン「それでは電話番号を調べ競争をしてみましよう。いいですか」

カフェの主人「はい」

フォートラン「そうですね。では花屋のご主人の電話番号でも調べますか」

カフェの主人「はい」

フォートラン「では。よーい」

「ピー」と笛が鳴る。

それぞれ作業を開始する。

●パソコン側はソフトを立ち上げるのに手間

がかかっている。

● カフェの主人愛用の手帳で「ハ」の行を引く。
カフェ主人声「ありました！」
フォートラン「パソコンはやっとソフトが立ち上がった
ところですよ」

§五五 カフェ・店内（夜）

フォートラン「パソコンの完敗ですよ」

島民、ざわざわする。

カフェの主人「：パソコンに：勝った：」

拍手が巻き起こる。

フォートラン「：そもそも洗濯機はスイッチを入れれば
服が洗える」

§五六 実写・パソコン説明画面（夜）

● 様々な家電品のスイッチを押す画面。

● 図解・家電とパソコンの違い。

● システムのみの実写・パソコン画面。

● パソコンのコンセントを引き抜く。

● 突然消えるモニター。等々。

フォートラン「電気釜はスイッチを押せばご飯が炊ける。
ステレオもテレビもビデオもみんなそうです。
す。当り前です。しかし、パソコンはスイ
ッチを入れただけでは何もできないのです。
パソコンを買ったとしても生活の何かが楽
になるということはないのです。こんなも
のは家電品ではない！」
(F・O)

§五七 図解・理系と文系

● パネルに描かれた文系と理系の関係図。

● 図 1

分厚いパソコンマニュアルから逃げている
人のイラスト。

フオートラン「なぜか。なぜパソコンが家電にはなれないのか。それはそもそもパソコンが理系の文系潰しの道具だからです。あのわけのわからないパソコンのマニュアル文章」

● 図 2
太ったメガネのいかさない理系の男の顔とスマートな都会派の文系の男の顔の対比イラスト。

フオートラン「理系には文章のセンスがまったくない。おまけに女にもてない。だからもてる文系を意味不明マニユアル攻撃で攻めるのです」

● 図 3
太ったメガネが悪魔のような顔をして笑っている、イラスト。

フオートラン「理系はこの難しいマニユアルなら文系の機械音痴には理解不能だろうなどと無気味に笑っているのです。意味を取り違えてパソコンを壊すかも知れんぞ。壊せ壊せ、機械音痴文系どもめ！などと笑っているのです」

◆五八 実写・とても難しい実演コーナー

突然始まる、日立の技術の方のやられとても難しいパソコンの説明。
理解不能な専門用語のオンパレード。

日立の方
「（例えば）：今Cドライブから起動させたのですが、このシステム。ああこれはDOSシェル画面です。ここにシステムがただしCドライブ用のシステムですが、ここにCONFIGといものがあります」
画面に表示されるわけの分からない言語。

DEVICE = MELEMM.SYS /JV32 /HM /M D0, D8 /Y1

DEVICEHIGH = MELCACHI.SYS 2048

SHELL = %COMMAND.COM /P

DEVICEHIGH=A:%DOS%KKCFUNC.SYS

```
DEVICEHIGH=A:¥WX2¥WXK.SYS /A3 /SD25
DEVICEHIGH=A:¥WX2¥WX2MT.SYS /INI=A:¥WX2
¥WX2SYS.INI
DEVICEHIGH = A:¥DOS¥PRINT.SYS
等々。あとは現場でよろしく約三分。
(F・O)
```

№五九 カフェ・店内（夜）

花屋の女主人「やめてくれよ」
漁師 「こちとら算術もロクにできねえんだよ！

気が狂うぜ。たく！」

ホテルの主人「寒気がしてきました」

フォートラン「まあまあ。落ち着いてください。みなさん。これがパソコンの正体です。こんなものを一般の方に扱えるわけがないのです。こんなものを家電だ！パラダイスだ！というわけにはいかないのです」

花屋の女主人「やだよ。わたしや一生触りたくないよ」
カフェの主人「アナログ島でよかった！」

ホテルの主人「本当によかった」

島民たち 「そうだ！そうだ！」

と言いながら盛り上がっている。

音楽が始まり、フォートランが歌う『パソコンとつきあいきれない』が始まる。

【歌三】

(約六〇秒)

踊りながら歌う、フォートラン。

一緒に参加する島民たち。

(手動ワイプ)

№六〇 カフェの前（夜）

フォートランの歌が外にこぼれている。
走ってきたビットがカフェの中に入ろうとする。

第六一 カフェ・店内（夜）

入ってくる、ビット。

フォートラン、歌い続けている。

ビット 「その男のことを信じちゃあダメっ！」

突然、音楽が止まる。

フォートラン、勢い余ってカラオケなしでワンフレーズ歌ってしまふ。間抜けだ。

ビット、島民の方へ駆け寄る。

フォートラン、ビットをにらむ。

フォートラン「（激怒して）人が気持ち良く歌ってるのに邪魔しやあがつて、このアマ！殺すぞ！」

ビット 「あの男はこの島をのっとりとうとしていている悪い奴なのよ！」

全員、笑う。

ウエブ 「（笑いながら）島をのっとりだつて……。そんなことできるわけないじゃないか、ビット」

カフェの主人「あの人はアナログを愛するいい人だよ」
花屋の主人「わかりやすくアナログの良さを説明してく

れるのよ。あなたもお話聞かなきゃだめよ」

マウス 「そうだよ、ビット。君は話を聞いてないからそんなことを言うんだ」

ビット 「わたし見てしまったのよ。あの男のアナログ島のつとり計画という秘密のファイルを！」

島民たち 「アナログ島のつとり計画」

フォートラン、あわてて島民たちの所へ移動する。

フォートラン「（必要以上に大袈裟に）おたくのホテルでは勝手に人の荷物を調べるのですか？」

ビット 「（口籠る）：いえ……」

フォートラン「（必要以上に大袈裟に）なんとという無礼なホテルだ。今だかつてない屈辱的な事件だ。

さっそく弁護士に相談して告訴の準備をしま

すが、よろしいか？」

困っている、ビット。

カフェの主人「それはちよっとやり過ぎだったんじゃないか？ビット。謝った方がいいんじゃないか」

花屋の女主人「そうよ。謝りなさいよ。ビット」

ビット「違うの。わたしは……」

ウエブ「いいわけするのか！ビット。」

マウス「素直に謝ればきっと許してもらえるよ」

ビット、悔しさで肩を震わせる。

ビット「もう知らないわ！」

ビット、走り出す。

ビット「どうなってもわたしは知らないからっ！（泣く）」

ビット、泣きながら外へ出て行く。

フォートラン「おい君！待ちなさい！話はまだ終わっていないぞ」

(F・O)

第六一 モートル家・前（夜）

夜空を見上げる、モートル。

モートル「（ぶつぶつと）ワシは未来のことなどけして考えない。未来はやがて、きつとやってくるからじゃ。未来とは今なんじゃぞ。馬鹿者！」

(F・O)

第六三 メイン・ストリート（夜）

泣きながら走る、ビット。

ビットの声「ひどい。みんなどうしてわたしの言うことを信じてくれないの？：あんな人のことを信じなんて：悲しすぎるわ！（泣く）」
(手動ワイプ)

第六四 カフェ・店内（夜）

フォートラン「あんな無礼な娘は相手にしてもしようがないありませんな（笑う）」

入ってくる、ホテルの主人。
島民たち、冷たい視線。

カフェの主人「ホテルの主人、おたくの娘さんがこちら
のフォートランさんに大変、失礼な事を…」

ホテルの主人「ええ。知っております。ですから、私は
お詫びに…」

フォートラン、ホテルの主人に近づき、やさし
く肩をたたく。

フォートラン「まあまあ。終わったことです。水に流し
ましょう」

ホテルの主人「（元気なく）本当にすみませんでした…」
フォートラン「どうぞです。ご主人も私のパソコンなんて
ケツ！の話を聞きになつては」

花屋の女主人「とっても面白いのよ！」

漁師「おう。そうしな。いい話だぜ！」

ホテルの主人「それでは…娘の失礼のこともありますし
…聞かせていただきます」

フォートラン「よろしい。これで全員集合ですな！さあ。
さあ。みなさん。もつとこちらへどうぞ。大丈
夫ですから。こんもの」

フォートラン、パソコンをポンとたたく。

島民たち、恐る恐るフォートランに近づく。

(F・O)

第六五 想像図・オフィス（昼）

フォートラン「仮にウェブさんとマウスくん。あなたが
たがサラリーマンとします。これはデジタル大
陸のパソコン病の様子ですぞ」

オフィスのパネルセット。

その前にウェブとマウスが立っている。

唐突にはじまる寸劇。

ウェブ「（下手な芝居で）なあ、マウス。今週の金曜
日のスケジュールどうなってる？ 四時に打ち
合わせはいるかい？」

マウス「（下手な芝居）…ちょっと待ってください。

今、スケジュール帳を開けるから」
マウス、パソコンへ移動して電源を入れる、仕草。

ウエブ 「早くしてくれよ。出かきなきゃいけないんだよ」

マウス 「ちよつと待ってくれよ。立ち上げるのに時間がかかるんだよ。パソコンだからね」

ウエブ 「おい。まだかよ」

マウス 「よし。立ち上がった。スケジュールのソフトを立ち上げて：」

ウエブ 「おい。まだ待たせる気かよ。本当に時間がな
いんだよ」

マウス 「ああ。大丈夫。大丈夫。今週の金曜日のスケ
ジュールだね」

ウエブ 「（いらいらして）ああ。そうだよ！」

マウス 「えーと。何も入ってないみたい（困った笑
い）」

ウエブ、マウスの頭を叩く。

ウエブ 「お前は大統領か！」

ジャンジャンとオチのSE。

＃六六 カフェ・店内（夜）

島民たち、腹を抱えて笑っている。

フォートラン「昨年末、希望に燃えてウインドウズ号に
乗り込んで船出していった機械音痴な人々。彼
らはみなパソコンは家電であり、パラダイスだ
と信じて疑わなかった。その彼らがどういう目
に遭ったか。希望に満ちたデジタル海峡へ
の航海がいかに大変だったことか：あははは
は」

（F・O）

＃六七 回想・デジタル海峡（夜）

（F・I）

フォートランの歌う

『こんな航海のはずじゃなかった』が始まる。
【歌四】
約六〇秒。

映像はデジタル海峡を航海する、ウインドウズ号の様子。

(O・L)

※六八 カフェ・店内（夜）

踊り狂い、歌うフォートラン。

【歌四】

(O・L)

※六九 回想・デジタル海峡（夜）

突然の雷。

高波によってウインドウズ号が沈没して行く。

【歌四】

(O・L)

※七〇 カフェ・店内（夜）

踊り狂い、歌うフォートラン。

【歌四】

(O・L)

※七一 回想・デジタル海峡（夜）

投げ出されて人々はサメに喰われてしまう。

【歌四】

(F・O)

※七二 旧教会の前（夜）

泣きながら走ってくる、ビット。

旧教会の前で立ち止まる。

思いついたように旧教会を見上げる。

ビット

「神様。どうかお助けください。私はこのアナログ島を愛しています。このアナログ島を傷つける者をわたしは許すわけにはいきません。わたしは命をかけてこのアナログ島を守れることを誓います。どうか神様：お助けください」（手動ワイプ）

＃七三 カフェ・店内（夜）

フォートラン「パソコンなど無意味なものなのです。あつても無駄な仕事が増えるばかりです。それに比べてアナログはなんと素晴らしいことか。必要最低限の労力でことが済む。無駄のない世界です。パソコンはいちいちトラブルの連続で無駄だらけ。結局、ほとんどの時間はトラブル処理に費やす結果となるわけです。デジタルよりアナログの方が早い！勝負は明白ですぞ！ははは：。アナログ万歳！」

フォートラン、万歳する。

フォートラン「あははは」

島民たち、拍手する。

再び、音楽が始まる。

フォートラン「さあ。みんなで歌いましょう！」

島民たちの歌う

『パソコンとはつきあいきれない』が始まる。

【歌三b】

歌が始まるとフォートランはそっと外へ出て行く。

＃七四 カフェの前（夜）

周囲を見回した後、歩き出すフォートラン。店内から歌声がこぼれている。

フォートラン「あの娘、生かしておけぬぞ。探し出してバラバラにして海に投げ捨ててやる。なめんなよ」

(手動ワイプ)

☞七五 旧教会の前(夜)

祈っている、ビット。

ビット

「神様：お願いです。アナログ島をお助けください：」

(手動ワイプ)

☞七六 カフェ・店内(夜)

カフェでは島民たちの歌う

『パソコンとはつきあいきれない』が続いている。

【歌三b】

(手動ワイプ)

☞七七 ホテル・フォートランの部屋(夜)

フォートラン、部屋に入ってくる。

ベッドの下から長細いケースを取り出す。

フォートラン「こんなに早くこれを使うことになるとは思ってもみなかったな：ははは」

(手動ワイプ)

☞七八 カフェの前(夜)

カフェの前を通過して行く、フォートラン。

カフェでは島民たちの歌う

『パソコンとはつきあいきれない』が続いている。

【歌三b】

(F・O)

☞七九 旧教会の前(夜)

祈っている、ビット。

ビット

「神様：お願いです。アナログ島をお助けくだ

さい：」
(手動ワイプ)

※八〇 カフェ・店内(夜)

島民たち、フォートランのパソコンを取り囲んでいる。

漁師が手に角材を持っている。

漁師

「ぶっ壊してやる！悪魔の箱め！」

漁師、角材を振り落とす。

モニターが破裂する。

驚いた島民たち、逃げる。

島民たち

「どひゃーっ」

(手動ワイプ)

※八一 モートル家・前(夜)

丘の下を見ている、モートル。

モートル

「(ぶつぶつと)：宇宙はただひとつの物質とただひとつの魂を持つ。ただひとつじゃぞ…」

(F・O)

※八二 カフェ・店内(夜)

島民たち、フォートランのパソコンを投げたり叩いたりしてハイテンションで盛りあがっている。

ウエブ 「やっちゃえ！やっちゃえ！」

マウス 「やつほー！やつほー」

カフェの主人 「アナログパワーを見せてやる」

花屋の女主人 「いい気味だわ！ほほほほ」

ホテルの主人 「なんか興奮しますねえ」

漁師 「てやんでえ！」

(手動ワイプ)

※八三 旧教会の前(夜)

チェンソーの音が近づく。

祈っていたビット、ハッとして振り向く。
チェンソーを持ったフォートランが無気味に
近づいてくる。

ビット 「な、なにをするの！」

フォートラン 「秘密を知ってしまったお前を生かしてお
くわけにはいかないんでね。ちよっとバラバラ
死体になってもらうよ。あははは」
フォートラン、さらに近づく。

ビット 「あ！」

フォートランのチェンソーがビットを襲う。
辛くもチェンソーから逃げる、ビット。

フォートラン 「くそう。今度は息の根を止めてやるぞ」
前進する、フォートラン。

ビット、じりじりと後退する。

旧教会の壁に押しやられ、逃げ場がなくなる。
ビットの額を流れる冷や汗。

フォートラン、ビットの顔をめがけてチェンソ
ーを出す。

ビット、間一髪で避ける。

チェンソー、旧教会の壁に突き刺さる。
空回りして抜けなくなる。

フォートラン、あせって抜こうとしている。
そのすきに転がり逃げる、ビット。

突然、フォートランの腕にチョップする手。
フォートラン、思わずチェンソーから手を離す。

慌てて振り向く、フォートラン。

その後ろには宣教師ドスブイが立っている。
ドスブイ登場の音楽。

フォートラン 「：ドスブイ：」

見守っている、ビット。

ビット 「マリア様だわ！」

ドスブイ 「おひさしぶりです。フォートラン博士」

フォートラン、一瞬躊躇した後、メイン・ス
トリート方向へ猛烈な勢いで走り出す。

フォートラン 「覚えてろ！ドスブイ！この借りは絶対に
かえしてやるからなっ！」

ドスブイ、走り去るフォートランを静かに見ている。

恐怖に震えている、ビット。

ドスブイ、ビットに近づく。

「怪我はありませんか？」

ビット 「ええ：」

ドスブイ、急にカメラ目線になる。

照明がドスブイのみのピンスポットに変わり、背景は全て黒となる。

ドスブイ

「わたしは宣教師ドスブイ。このアナログ島にパソコンの布教にやってきました」

(F・O)

♀八四 ホテル・フォートランの部屋(夜)

フォートラン、テレビ電話で通信している。

フォートラン 「：フォートランだ。大ピンチだ。宣教師

ドスブイがアナログ島に上陸した」

(手動ワイプ)

♀八五 旧教会の前(夜)

ドスブイとビットが座っている。

ドスブイ 「わたしはこのアナログ島に教会を建設して島民の方々に環境にやさしいパソコンを伝道します」

ビット 「：環境にやさしい？」

ドスブイ 「デジタル大陸とアナログ島の自然な調和です」

ビット 「？」

ドスブイ 「わたしはこの廃墟を直して教会にしようと思います。ただ、わたし一人では限界があります。そこで、わたしにあなたのお力を貸していただけませんか？」

ビット 「アナログ島に教会を：？」

(F・O)

☞八六 旧教会の前（朝）

（F・I）

旧教会の前で教会を作る作業をしている、ドス
ブイとビット。

ドスブイの歌う

『私は歌う宣教師』が始まる。

【歌五】

（約六〇秒）

教会建設の作業を続ける、ビット。

踊りながら歌う、ドスブイ。

（F・O）

☞八七 ホテル・フォートランの部屋（朝）

デジタル・タイムスを広げて読んでいる、フォ
ートラン。

フォートラン「強いなあ…ブルズ。ダブルコアとは恐れ
いる」

フォートラン、新聞を膝に置く。

フォートラン「それにしてもあのデブドスブイめ。何を

企んでおるのだ。痛い目にあわせてやるぞ。覚

えておれ：」

（手動ワイプ）

☞八八 カフェの前（朝）

カフェの脇に破壊されたフォートランのパソ
コンが無造作に置かれている。

店の前を掃除する、カフェの主人。

置かれたパソコンの前まで移動する。

パソコンを蹴る、カフェの主人。

カフェの主人「ははは」

腹をかかえて笑う、カフェの主人。

（手動ワイプ）

第八九 港（朝）

港に立つ、ウェブとマウス。

マウス 「ビットはどういうつもりなんだろう。ぼくたちの敵を応援したりして：」

ウェブ 「どうする？ビットと絶交するかい？」

マウス 「ああ。もち絶交だよ。あんな奴！」

ウェブ 「じゃあ、会っても無視だぞ」

マウス 「OK」

（手動ワイプ）

第九〇 旧教会の前（朝）

ドスブイとビット。

ビット 「ドスブイ様。ひとつお聞きしてもよろしいでしょうか？」

ドスブイ 「ええ。どうぞ」

ビット 「パソコンのことです」

ドスブイ 「ええ」

ビット 「わたしは心配なのです。アナログ島にデジタルが普及したらこの美しい自然はどうなってしまうのですか？」

ドスブイ 「わたしの布教のテーマはデジタルとアナログの共存です」

ビット 「でも：本当にそんなことできるのでしょうか？」

ドスブイ 「パソコンは人間の考え出した道具です。自然界は神がお作りになられました。そして私たち人間もまた、神によって作られたのです」

ビット 「ええ（うなづく）」

ドスブイ 「人間の作り出したと思われる道具も実は全て神の仕業なのです」

「神様が？」

ドスブイ 「ただ、人間は非常にあさはかな知恵でしかその偉大な道具を使うすべを知らないだけなのです。その偉大な道具は本来、人間界と自然界、

もっと大きく言うと宇宙とを結びつけるコミ
ユニケーション・ツールなのです」
(手動ワイプ)

◆九一 ホテル・フォートランの部屋(朝)

ヒゲを剃るくフォートラン。
フォートランのあごにはシェービング・クリー
ム。

フォートラン「(クイーンの鼻唄) : ウィーアザチャン
ピョン :」
(手動ワイプ)

◆九二 旧教会の前(朝)

ドスブイとビット。

ドスブイ 「わたしの使命はその偉大な道具の本来の目
的を布教することにあるのです。わかりませ
るか？」

ビット 「ええ。少し :」

ドスブイ 「道具といわれものにも魂があります。生物や
植物と同じようにね」

ビット 「ええ」

(F・O)

◆九三 縮小版・全景(昼)

アナログ島の全景。
ピアノ曲。

◆九四 ホテルの前(昼)

ホテルの前に立っている、ホテルの主人。
飛び跳ねるように走ってくる、ビット。

ビット 「(元気よく) ただいま! パパ」

ホテルの主人「(怒って) ただいまじゃないだろう! ビ
ット。あの人には近づいてはいけないと何度も
言ってるじゃないか」

ビット 「どうして？ どうしてパパはわたしの言うことを信じてくれないの？」

ホテルの主人 「どうしてビットはパパの言うことときかないんだい？」

ウエブとマウスが歩いてくる。

ビット、二人に気づいて。

ビット 「おはよう！ ウエブ！ マウス！」

ウエブとマウス、無視をする。

ビット 「あなたたちも教会作るの手伝ってよ」

ウエブ 「いやなこった！ あ！ しやべっちゃった！」

ウエブ、困ってマウスを見る。

マウス 「（シーの仕草）」

ビット 「わたしを無視するつもりなのね？（何かを考える）」

ウエブとマウス、必死にしゃべらないようにしている。

ビット 「ねえ。ウエブあなたまた背が伸びたんじゃない？ 大き過ぎてとても気持ち悪いわよ」

「なんだと！（慌てて口を押さえる）」

ウエブ 「マウス。あなたはますますおデブちゃんね。

ビット ダイエットでもしたらどうなの？」

「ちきしょう！ もう我慢できない。無視はやめ

マウス 「おい！ ビット！ どういうつもりなんだ！ あの女はデジタル大陸から来た悪魔の使者なんだぞ。わかっているのか？ わかってないんだろ

うな。お前さんはオタンコナスだからな！ へっ」

ビット 「誤解よ。ドスブイ様はわたしたちの味方なのよ。デジタル島とアナログ島の調和を真面目に

お考えになっっている方なのよ」

ウエブ 「そんなの無理なことさ。このアナログ島をデジタル大陸の一部にしようとして企てているに決

まってるのさ」

マウス 「ぼくたちの味方はフォートランさんの方だよ」

ビット 「違うったら何を言ってるのよ！ わたしはあの

人に殺されかけたのよ」

ホテルの主人「ビット。またそんな嘘を言うのか！」
フォートランがホテルから出てくる。

フォートラン「こんにちわ。みなさん！」

島民たち「こんにちわ。フォートランさん」

フォートラン「こんにちわ。お嬢さん」

ビット、フォートランをにらんだ後、走り出す。
ホテルの主人「待ちなさい！ビット！話は終わってないよ」

フォートラン「これはどうやら嫌われてしまったようですな。ははははは…」

(F・O)

第九五 旧教会の前(夕)

教会にする作業を黙々と続ける、ビットとドス
ブイ。

バロック調の音楽。

ビットの声「教会の修理は思った以上に大変だったの。

想像以上に痛んでいてわたしとドスブイ様は
ひとつひとつ丁寧に直していったの。とても手
間にかかる仕事だった」

(F・O)

第九六 カフェの前(夕)

テーブルなどが外に出てオープン・カフェテラ
スになっている。

フォートランを取り囲む、島民たち

(ウエブ、マウス、花屋の女主人、カフェの主
人、漁師の五人、ホテルの主人)。

フォートラン「あの女はデジタル大陸の有名な犯罪者な
のです。いろんな人を騙しては金を盗む、とん
でもない女です。聖職者のコスチュームに騙さ
れはいけません。あれは真っ赤な嘘ですぞ。あ
いつはただのあばずれ女ですからな」

漁師「俺たちをだまそうって、のか！」

フォートラン「あの女が今作ってるものは決して教会な

どではありません。アジトです。あそこでもない事を企てようとしているのです。大体、あの女は不法にあの場所を占拠しているではありませんか！」

花屋の女主人「そうよ。わたしたちに何の相談もなく、あの場所に居座ってるわ！」

カフェの主人「そういわれてみると、そうだな……」

フォートラン「百害あって一利なしです。早くあの女をアナログ島から追い出さないと大変なことになるますぞ」

ウエブ「なんとかしなければ……」

漁師「よおし。みんな！あの女を追い出しに行くぜ！」

漁師、旧教会に向かって歩き出す。

マウス「退治してやる！」

他の五人も漁師の後に続く。

その姿を見てうなづいている、フォートラン。フォートラン「しめしめ……うまくいったぞ……」

(F・O)

第九七 旧教会の前(昼)

作業を続けている、ビットとドスブイ。

ざわざわと島民たちが近づく声が聞こえる。

ビット、反応して振り向く。

ビット「あ。みんなー！手伝いにきてくれたの？パ
パ！」

うれしそうに手を振る、ビット。

ホテルの主人、そわそわしている。手には火炎瓶。

他の島民たちもそれぞれ手に火のついた火炎瓶を持っている。

ビット、不審に思っ手て手を降ろす。

ドスブイも異変に気づき、手を休めてビットに近づく。

漁師「いてまえ！」

一斉に火炎瓶を旧教会に向かって投げる、島民たち。

ドスブイ 「危ない！」

ドスブイ、ビットをかばって一緒に地面に伏せる。

火炎瓶、旧教会に転がって火がつく。

ドスブイ 「たいへん！」

ドスブイ、それに気づいてそばにあった毛布を取り、懸命に消化作業をする。

大声で笑いながら走って逃げる島民たち。

ビットも起き上がって消化作業を手伝う。

ビット

「（泣きながら叫ぶ）どうして？ どうしてこんなひどいことするの！ パパなんか！ パパなんか大っ嫌い」

（F・O）

九八 タイトル・つづく！

「つづく！」

九九 明日予告篇

三〇秒前後の予告。

明日の内容シーン三〇秒編集版。

【棒つき人形劇・冒険@アナログ島】

★一九九六年三月十八日放映【パソコンは素敵だ！の巻】

一〇〇 あらすじ

九〇秒前後のあらすじ。

映像のみのいい所編集。

あらすじの音楽流れる。

ビットの声「わたしの名前はビット。平和なアナログ島

に暮らす女の子。最近はおともだちがみんなデジタル大陸に渡ってしまって悲しいの。そんな

ある日、潜水艦に乗ってこのアナログ島に現れた謎の男・フォートラン。彼はこのアナログ島をのつとろうとしいてやってきたらしいの。彼の秘密を知ってしまったわたしはみんなにそのことを知らせただけど、みんな信じてくれなかったの。わたしのパパまで嘘だっているの。私は悲しくて廃墟で泣いていたわ。神様助けて！ってね。そしたらあのフォートランという男がチェンソーでわたしを殺そうとしたの。そこに現れてわたしを助けてくれたのが宣教師ドスブイ様よ。ドスブイ様はパソコンの布教にこられたの。わたしはドスブイ様のお手伝いをして教会作りを手伝ったの。そしたら今度はみんな火炎瓶を投げたのよ」

§101 モートル家・前（夕）

流れる雲を見ている、モートル。

モートル 「（ぶつぶつと）けっして後悔せず、けっして他人を怨むな。これは英知の第一歩じゃ」

（F・O）

§102 旧教会の前（夜）

火炎瓶の後片付けをしている、ビットとドスブイ。

ビット 「本当にごめんなさい。みんな本当はいい人なのにあのフォートランのせいで…パパまで…」

ドスブイ 「ビット」

ビット 「はい」

ドスブイ 「また最初からやり直しただけど手伝ってくるかしら？」

ビット 「もちろんです！」

ドスブイ 「ありがとう、ビット」

ビット 「ドスブイ様は怒っていないんですか？」

ドスブイ 「怒りは捨てなさい。そしてすべての人を

許し、愛しなさい」

ビット

「そんなことできません。こんなヒドイことされて：愛せだなんて：」

ドスブイ

「神は申されました。悪人には手向かつてはならない。だれかがあなたの下着を取ろうとしたら、その者には上着を取らせなさい。求める者には与えなさい。あなたから借りようとする者に背を向けてはならない、と」

ビット

「（納得いかない様子）：でも：」

ドスブイ、ビットの肩をやさしく抱く。

ビット、ドスブイに肩に甘えるように寄り添う。

ビット

「：ドスブイ様」

(F・O)

♯103 旧教会の前（朝）

旧教会で作業をするドスブイとビット。

ドスブイの歌う『私は歌う宣教師』が始まる。

【歌五】

(O・L)

♯104 旧教会の前（昼）

旧教会で作業をするドスブイとビット。

ドスブイの歌う『私は歌う宣教師』が始まる。

【歌五】

(O・L)

♯105 旧教会の前（夕）

旧教会で作業をするドスブイとビット。

徐々に教会らしくなっていく。

【歌五】

(O ・ L)

＃一〇六 旧教会の前（夜）

夜間作業をするドスブイとビット。
更に教会らしくなって行く。

【歌五】

(O ・ L)

＃一〇七 旧教会の前（朝）

夜間作業をするドスブイとビット。
更に更に教会らしくなって行く。

【歌五】

(O ・ L)

＃一〇八 旧教会の前（昼）

夜間作業をするドスブイとビット。
更に更に更に教会らしくなって行く。

【歌五】

(O ・ L)

＃一〇九 旧教会の前（夕）

夜間作業をするドスブイとビット。
ほぼ教会の外観が完成する。

【歌五】

(F ・ O)

＃一一〇 縮小版・全景（夕〜夜）

(F ・ I)

アナログ島の夕景が夜に変わって行く。
デジタル大陸に花火が打ち上がる。

(F ・ O)

＃一一一 カフェ・店内（夜）

カフェの主人、ウェブ、マウス、漁師、花屋の女主人、ホテルの主人そしてフォートランがいる。

漁師
「ははは：いい気味だ。あの詐欺師、今頃泣いてるぜ！ははは：」
ホテルの主人、複雑な様子。

花屋の女主人「あの女、これで懲りてデジタル大陸に帰るかしらねえ」

カフェの主人「懲りなきやまたやってやるよ」
フォートラン、カプチーノを飲みながら静かに島民の会話を聞いている。

漁師
「こんどは発破をしかけてやるぜ」
ホテルの主人、反応する。

マウス
「それはちよつとやり過ぎじゃ：」

漁師
「（マウスをにらんで威圧的に）なに？反対か！マウス」

マウス
「（もじもじして）：いえ、賛成です：」

カフェの主人「そうだ。柱！柱！」

花屋の女主人「はしら？」

カフェの主人「あの旧教会の真ん中にある柱はかなりヤバイんだよ。あれをハンマーで叩いたら全壊するよ」

フォートランの目がぴかりと光る。

花屋の女主人「まだ居座るつもりならそうしてやるうか。ほほほほ」

うかないホテルの主人の顔。

フォートラン、静かに席を立ってカフェから出で行く。

（手動ワイプ）

§ 1111 港（夜）

海を見ている、ドスブイとビット。

ビット
「ねえ。ドスブイ様。デジタル大陸ってどんなところ？」

ドスブイ
「：とても忙しい所ね。すべてのはスピー

ドなの。いくらいいものでもスピードがなければだめなの。だから、のんびり屋さんには向かないわね」

ビット 「わたしは向かない？」

ドスブイ 「ビットはデジタル大陸に行きたいの？」

ビット 「（考えて）よく：わからないです」

ドスブイ 「わたしはアナログ島の方が好きですよ。

このゆったりと時間、別世界にいるみたい」

ビット 「（嬉しそうに）ドスブイ様。アナログ島、

好きなんだ：」

（手動ワイプ）

§ 一三 旧教会の前（夜）

抜き足差し足忍び足で旧教会に近づく、フオートラン。外灯ひとつの暗い旧教会。

フオートラン、手に持った懐中電灯をつける。旧教会の中に顔を突っ込んで。

フオートラン 「（小さな声で）こんばんわ：だれかいま
すか？」

しばらく反応をうかがうが、反応がない。

フオートラン 「しめしめ。だれもないな：」

旧教会の中に入る、フオートラン。

（手動ワイプ）

§ 一四 港（夜）

ドスブイとビット。

ビット 「ねえ、ドスブイ様」

ドスブイ 「なあに。ビット」

ビット 「ドスブイ様の旦那様ってどんな人？」

ドスブイ 「（首を横に振って）：わたしに夫なんて

いないわ」

ビット 「どうして？」

ドスブイ 「（笑って）どうして？さう、どうしてな

のかしらね（笑う）」

ビット 「わたしが男の人だったら絶対にプロポー

ズするのになあ……」

ドスブイ 「（笑って）ありがとう。でもそのプロポ

ーズ、断るわ（笑う）」

ビット 「え！ひどい！」

ビット、ドスブイの肩をたたく。

（手動ワイプ）

§二五 旧教会・室内（夜）

懐中電灯で室内を照らす、フォートラン。

中央の柱で止まる、懐中電灯の明かり。

フォートラン「おお。これだこれだ。ようし。この柱に

細工して自然に倒れるようにしてやるぞ。

ドスブイめ。下敷きになってペツチャンコ

だぞ。こりや、笑いが止まらんわい。はは

はは……」

フォートラン、柱に向かって歩き出す。

（F・O）

§二六 モートル家・前（夜）

夜空を見上げている、モートル。

モートル 「（ぶつぶつと）人生が始まる否や、そこにあ

るのは数々の危険じゃ……」

（F・O）

§二七 港（朝）

（F・I）

小舟に乗り、漁にでかける漁師。

漁師 「朝だ。朝だぜ。今日も船を出して魚をとり

出かけるぜ。すべては自然の恵みーとくりやあ。

へいへいほー！」

漁師の小舟、遠ざかって行く。

（手動ワイプ）

§二八 花屋の前（朝）

花屋の女主人が店先に花を並べている。

花屋の女主人「赤い花に黄色い花。白い花に紫の花。今日も売るわよお花ちゃん。うちはお花屋さん。八百屋じゃないよ」

(移動)

§一九 カフェの前(朝)

カフェの主人が表にテーブルなどをだしている。

カフェの主人「カフェオーレにクロワッサン。レモン水にオムレツ。腹が減っては戦ができぬ。食べて行きなよスペシャル・モーニング」

(移動)

§二〇 ホテル・フォートランの部屋(朝)

ノックの後、ほうきを持って部屋に入ってくる、ホテルの主人。

フォートランはいない。掃除を始める、ホテルの主人。

ホテルの主人「ダブルベットに眺めのいい部屋。創業五〇年の伝統ホテル。可愛いひとり娘は家出中なのが心配の種。私は二代目ホテルの……」

机の下にフォートランの隠したファイルが少し顔を出している。

パパ、それをのぞく。

(手動ワイプ)

§二一 旧教会の前(朝)

旧教会の屋根に昇り、十字架を設置している、ドスブイ。

ビット「下から心配そうに見上げている、ビット。」

ドスブイ様！大丈夫ですか？気をつけて

くださいーいよー！」

ドスブイ「こう見えても身は軽いのよ。ビット」

ビット

ドスブイ、屋根の上でおどけて見せる。

「（笑う）」

（手動ワイプ）

§ 二二三 ホテル・フォートランの部屋（朝）

フォートランの秘密ファイルを見ている、ホテルの主人。

ファイルのタイトルの大写。

『アナログ島のつとり計画くフォートラン』

ホテルの主人「ビットの言ったことは本当だったんだ！」

ホテルの主人、ファイルを読み始める。

（手動ワイプ）

§ 二二三 旧教会・室内（朝）

パソコンのセッティングをするドスブイ。

鼻唄を歌いながら掃除をする、ビット。

中央の柱の周りには木で作った柵がある。

「危険！」の貼り紙。

ドスブイ 「ごきげんね。ビット」

ビット 「だって、もうすぐ完成ですもの！」

ドスブイ 「（笑う）」

（手動ワイプ）

§ 二二四 ホテル・フォートランの部屋（朝）

ホテルの主人、ファイルを読み続けている。

ホテルの主人「アナ、アナ、アナログ島にフォートラン

さんの新政府だって？」

（手動ワイプ）

§ 二二五 丘の道（昼）

丘の道をよろよるとのぼる、フォートラン。

フォートラン「くそう。かったるいぞ！爺さん家はまだ

か。まったく辺鄙なところだ…あれ？この木は

…」

フォートラン、木を見上げる。
(手動カレード)

＃二二六 提供・この樹なんだろう？ B

日立の「この樹なんだろう、気になる樹：」の歌が始まる。

フォートランが木の横に立っている。次々と島民たちが登場して木をまわりでやけに楽しそうにしている。ヤラセ風。

流れる続ける『この番組は日立の提供で送りいたします』

約三〇秒。

(F・O)

＃二二七 モートル家・前(タ)

向かい合って立っている、フォートランとモートル。

フォートラン「長老。あなたに頼みがあるんだ」

モートル「頼む木のもとに雨漏るぞ」

フォートラン「？(一瞬考えた後)：私は一週間後この

アナログ島に新政府を発足させたいんだが。

長老、あなたを総理大臣に任命したい」

モートル「現代には現在なく、来世には未来なく、

未来には過去なしじゃ」

フォートラン「(無視して)もちろん、私が国王だ。先

に言っとくが総理大臣は国王の次に偉いんだ。だがしかし、腐っても総理大臣だ。一般人よりはかなり偉い。あなたが総理大臣なら島民も安心するだろうからな。どうだ。引き受けてもらえるな？」

モートル「かごの鳥はかごの価値を知らず」

フォートラン「(無視して)引き受けてくれたら首相官

邸を建ててやるぞ。こんなボロ家より数百倍快適だ。召し使も運転手もつける。どうだ。引き受けてくれるな？長老」

モートル 「野心は死人が食べる食い物じゃ。私はそんな食い物を詰め込む胃を持っておらんのじゃ」

フォートラン 「(怒って) いちいち逆らやあがって、このクソジジイ！」

フォートラン、モートルの胸を押す。

モートル、素早く身をかわしてフォートランを一本背負いで投げ飛ばす。

モートル 「(気合一発) 鼻糞まるめて萬金丹！」
飛んで行く、フォートラン。

§二二八 丘の道(夕)

丘を飛びながら落ちて行く、フォートラン。

フォートラン 「助けてくれーっ！」

フォートラン、大きな木に衝突する。

フォートラン 「いたたっ！」

大きな木の下に落ちる、フォートラン。

フォートラン 「まったく邪魔な木だ。切り倒してやるぞ！
くそうっ」

(手動ワイプ)

§二二九 教会の前(夕)

完成した教会の入口に「アナログ島教会」の手書き木製看板を設置する、ドスブイ。

拍手する、ビット。

ビット 「ヤッター！これで完成ね！」

ドスブイ 「ご苦労さまでした」

木の陰から様子をうかがっている、ウエブとマス。

ウエブ 「まずいよフォートランさんに早く知らせない」と

マス 「うん。そうだね」

ウエブとマス、その場を離れる。

(手動ワイプ)

§ 130 ホテルの前（夜）

ホテルの主人がホテルの前を行ったり来たりしている。

ホテルの主人「問題はどうかやってみんなに知らせるか、です。いきなりでは誰も信用しないだろうから：確かな根拠が必要です：根拠：根拠：証拠。そうだ！証拠だ！」

ホテルの主人、急いでホテルの中に入って行く。

（手動ワイプ）

§ 131 教会の前（夜）

ロウソクが灯っている。
パソコン教室のように規則正しく並んでいる、六台のパソコン。

その前に立つ、ドスブイとビット。

ビット
「ドスブイ様」

ドスブイ
「なあに。ビット」

ビット
「こうしてただ待っていて誰もきませんよ！」

ドスブイ
「そうね」

ビット
「宣伝しなきゃね」

ドスブイ
「宣伝？」

ビット
「チラシを作って配ったらどうかしら」

ドスブイ
「それではスパー・マーケットの開店みたいね：」

ビット
「そうか：」

ドスブイ
「：みんなが来てくれるよい術は何かありませんか？ビット」

ビット
「（怒って）今、考えているんです！」

ドスブイ
「（笑って）あら。ごめんなさい」

（手動ワイプ）

§ 1111 カフェ・店内（夜）

島民（カフェの主人、漁師、花屋の女主人、ウエブ、マウス）が集まっている。
入ってくる、フォートラン。

島民たち 「こんばんわ。フォートランさん」

フォートラン 「（元気なく）…こんばんわ」

ウエブ 「どうしたんですか？フォートランさん」

フォートラン 「いやあ。ちよつとスッテンコロリンで…。

（腰をさする）」

カフェの主人 「カプチーノですか？フォートランさん」
フォートラン 「ああ。よろしく」

ウエブ 「フォートランさん。ご存じですか？教会のこと」

フォートラン 「？」

ウエブ 「ぼくたち見てきたんですけど。完成してしまつたんですよ！」

マウス 「アナログ島教会なんて看板出しましたよ」

漁師 「なんだと！冗談じゃねえや！ぶっ壊しに行くぜ！みんな」

花屋の女主人 「そうよ！許せないわ！」

フォートラン 「まあまあ。みなさんお待ちなさい」

熱り立つ漁師と花屋の女主人、立ち止まる。

フォートラン 「私はね、あの教会の柱にちよいと仕掛けをしたのですよ。あの教会がつぶれるのは時間の問題ですよ」

漁師 「仕掛け？」

フォートラン 「少しでも柱を触ると倒れるんですよ。ドドドと全壊、生き埋めですよ。あはははは」

花屋の女主人 「それはいい！」

漁師 「おう。ニュースの時間じゃねえか！」
全員、テレビに視線を移す。

TVの音声 「（時報）デジタル大陸ニュース！」

§ 1111 テレビの画面

ニュースキャスターがニュース原稿を読んでいる。

キャスター「本日、午後九時頃、デジタル政府は情報ハ
イワイ計画の中間報告を発表しました。発表に
よりますと工事は予定通り順調に進行してお
り、二〇〇一年の完成は間違いないようです。
では次のニュースです：」

§ 一三四 C M

日立ニュースが連発される。

(F・O)

§ 一三五 カフェ・店内(夜)

テレビを見ている、島民たち(カフェの主
人、漁師、花屋の女主人、ウエブ、マウ
ス)とフォートラン。

カフェの主人「：なんの話だっけ？」

フォートラン「少しでも柱を触ると倒れるんですよ。ド
ドドと全壊、生埋めですぞ。あはははは」

漁師「ははは。いい気味だぜ」

マウス「(ウエブに)ビットも生埋めになっちゃ

うのかい？」

ウエブ「(マウスに)そういうことになるのか、

かな：」

マウス「(ウエブに)ちよつとかわいそうだね：」

カフェの主人「教会なんか作ってもだれも行かないから
無駄なのにねえ」

漁師

「そりやそうだ。どうせ作るんならカジノ

とかもつと楽しいもの作りやいいのによ。

：ったく」
(手動ワイプ)

§ 一三六 教会・室内(夜)

考え込んでいる、ドスブイとビット。

ビット 「そうだ！モートルさまに相談するのがいいわ！」

ドスブイ 「モートルさま？」

ビット 「モートルさまはアナログ島一番の哲学者

なの！アナログ島の校長先生よ」

ドスブイ、うなづく。

ドスブイ 「是非、お会いしたいわ」

ビット 「じゃあ。レッツ・ゴーだわ！」

ビット、ドスブイの手を引っ張って走り出す。
(手動ワイプ)

§ 一三七 カフェ・店内（夜）

フォートラン、カフェの中央に歩き出す。

フォートラン 「ゴホン。みなさん。今からこのフォートランが重大発表を致しますぞ」

ウエブ 「重大発表？」

マウス 「なんだろう？」

フォートラン 「私はこのアナログ島を愛しています！」

漁師 「てやんでえ。ブラボーだい！」

漁師、拍手する。

フォートラン 「私はこのアナログ島をより快適な島にするために新政府を発足させたいのです！」

カフェの主人 「新政府？」

マウス 「新政府って？」

フォートラン 「島の人々がもっとお金持ちになるようにいろんな施設を誘致します」

漁師、手を上げる。

漁師 「質問！」

フォートラン 「どうぞ」

漁師 「誘致ってどういう意味だい？おいら自慢じやねえが学がねえんだよ。わからねえよ」

フォートラン 「つまり、他の大陸の会社にですね、このアナログ島に工場などを建ててもらって税金を落してもらおうということですよ」

漁師 「他の大陸ってどこだい？」

フオートラン「例えばデジタル大陸です」

漁師「冗談じゃねえ！なんで俺たちがデジタル大

陸に協力しなきゃなんねえんだよ！」

花屋の女主人「そうよ！変よ！そんなの」

フオートラン「まあまあ。最後までお聞き下さい。短気

は損気ですぞ。まあまあ」

身構えた漁師、肩の力を抜く。

フオートラン「そうすることによってこのアナログ島は

潤うのです。巨額な税金が生まれるのです。

つまり、島の皆さんがお金持ちなるという

ことです。いかがですか？けっして悪い話

ではありませんぞ」

島民たち、ざわざわし始める。

(手動ワイプ)

§ 一三八 モートル家・前(夜)

立っている、モートルとドスブイとビット。

ビット「モートルさま。教会にみんなを集めるに

はどうしたらよいでしょうか？」

モートル「虎を談ずれば虎に至り、人を談ずれば人に至

るのじゃ！」

ドスブイ「良い噂をつくるのですか？」

モートル「小さい水差しには大きな耳があるぞ」

ドスブイ「：水差し？」

モートル「馬鹿の朝歌、ほいと寝歌じゃ」

ドスブイ「：馬鹿の朝歌？」

ビット「どういう意味ですか？モートルさま」

ドスブイ「わかりました！歌ですわね！」

ドスブイ、急に走り出す。

「ありがとうございます！モートルさま」

走りながらお礼を言う、ドスブイ。

ビット「あ。ドスブイ様！待って」

ドスブイの後を追う、ビット。

モートル「(ふつぶつと)：馬鹿な子も三年養えば三つ

になるのじゃ」

(手動ワイプ)

§一三九 丘の道(夜)

猛烈な勢いで駆け降りる、ドスブイ。
それを追う、ビット。

ビット

「ドスブイ様！まっってくださいーい！」
(手動ワイプ)

§一四〇 カフェ・店内(夜)

先程とかわらなない様子。

フォートラン「私は公約しますぞ。みなさんの所得は一年で三倍になります！」

フォートラン、格好良くポーズを決める。

カフェの主人「：三倍だって：？」

漁師「マジかよ。おい」

花屋の女主人「いいお話じゃないか」

マウス「すごいね。ウエブ」

ウエブ「でもぼくたちはまだ働いてないから三倍

になってもゼロだよ」

マウス「(少し考えて)：あ。そっか！ちえっ」

マウス、悔しがる。

フォートラン「アナログ島の総理大臣にモートル長老を指名します！」

漁師「それはいい！」

カフェの主人「賛成！」

フォートラン「国王はこの私です！」

漁師「国王？：(手を上げかけて下ろす)」

カフェの主人「国王？」

マウス「国王って？」

ホテルの主人が秘密ファイルを持って走って
入って来る。

ホテルの主人「(大きな声で)その男を信じちゃ行けないです！」

ホテルの主人、ファイルを振り上げる。

全員、ホテルの主人を見る。

＃一四二 教会・室内（夜）

（手動ワイプ）

パソコンの前に座っている、ドスブイ。
後ろに立つ、ビット。

ドスブイ 「みんなが楽しくなって教会に来てしまう歌
をパソコンで作るのよ！ビット」

ビット 「パソコンで歌を？そんなことできるんです
か？」

ドスブイ 「ええ。もちろんよ」

ドスブイ、モニターに向かう。

（手動ワイプ）

＃一四三 カフェ・店内（夜）

立ちつくしている、ホテルの主人。

島民たちとフォートラン。

フォートラン、ホテルの主人に近づく。

フォートラン 「どうしたんですか？ご主人」

ホテルの主人 「私は見てとまったのです。あなたの秘密
のファイルを！アナログ島のつとり計画をで
す」

ファイルをフォートランに突きつける。

フォートラン 「ほー。またそのような無礼ですか。似た
もの親子だ（笑う）」

カフェの主人 「また部屋に勝手に入ったのか？」

漁師 「ひでえホテルだ」

花屋の女主人 「やり過ぎだよ」

ホテルの主人 「そうじゃないんです。聞いてください！
みなさん」

（手動ワイプ）

＃一四四 実写・パソコン画面（夜）

マウスをクリックする、ビット。

M I D I ソフトが立ち上がる。

ドスブイとビット、話し合いながら詩を作って行く。

ドスブイ 「○○：というのはどう？」

ビット 「××：の方がいいわ。ドスブイ様」

ドスブイ 「××：。そうね。そうしましょう」

(手動ワイプ)

＃一四四 カフェ・店内（夜）

ホテルの主人「その秘密のファイルにはこのアナログ島にデジタル大陸の会社のデジタル工場を作る計画が書いてありました」

漁師 「そんな話ならよう、もうフォートランさんから聞いたぜ！」

ホテルの主人「聞いた？」

カフェの主人「その説明会をやったんだよ」

フォートラン「そうですぞ。ご主人」

ホテルの主人「（困って）：じゃ、フォートラン：さんが国王になることは？そうです！このアナログ島の国王になろうとしているんです！

この男は！」

漁師 「それもさつき聞いたぜ」

ホテルの主人「聞いた？（困っている）：そ、そんなバカナ：」

(手動ワイプ)

＃一四五 実写・パソコン画面（夜）

画面上をクリックすると楽器の音が鳴る。

それをスコアに貼りつけて行く、ドスブイ。

ビットの声「すごい。箱の中には誰がいるの？」

ドスブイの声「箱の中には優秀な演奏家が住んでいるの

よ：ドラムの人に、ギターの人が、ベースの人に
ピアノの人、バイオリンの人もね（笑う）」

ビットの声「（感動して）へー」

出来上がったワンフレーズのカラオケを再生
してみせる、ドスブイ。

ドスブイの声「どうかしら？」
ビットの声「いいわ。とても素敵！」
ドスブイの声「OK。この調子で続けるわね」
ビットの声「早く続きが聞きたい」

作業を続ける、ドスブイ。
等々。

(手動ワイプ)

＃一四六 カフェ・店内（夜）

フォートラン「気はすみましたかな。ご主人」

フォートラン、ホテルの主人の肩をたたく。

ホテルの主人「み、みなさんは：それでいいんですか？」

漁師 「モートルさまが総理大臣てのはいいと思う

けどよう：」

カフェの主人「フォートランさんが国王というのは：」

花屋の女主人「デジタル大陸の人だからねえ」

ホテルの主人「（元気になって）そうですよね！」

フォートラン「（ホテルの主人の言葉を打ち消すように）
みなさんは根本的ところで誤解をされている
ようですぞ。私が国王にならなければこのア
ナログ島はお金持ちになれないのです。なぜな
らこのアナログ島には私しかデジタル大陸と
コンタクトできる者がいない。デジタル大陸出
身の私でなければ年収三倍計画は不可能な
ですぞ！」

カフェの主人「：なるほどそうだ：」

漁師 「そう言われてみりやあ。そのとおりだぜ」

納得してうなづく、島民たち。

ホテルの主人「うーん」

ホテルの主人、悩んでいる。

(手動ワイプ)

＃一四七 教会・室内（夜）

パソコンの前に座る、ドスブイ。その横に
座っている、ビット。

ドスブイ、マイクに向かってコーラスを録音する。

ドスブイの声「ワワワワワワ…」

ビットの声「ドスブイ様！本物の歌手みたいだわ」

ドスブイの声「ありがとう（笑う）」

コーラス録音を続ける、ドスブイ。

感激する、ビット。

（手動ワイプ）

＃一四八 カフェ・店内（夜）

フオートラン「いいですか！みなさん。私はこのアナロ

グ島に絶対になくてはならない人物なのです。みなさんの年収は私の手の中にあるのです。金持ちになるも貧乏になるも私の気持ちひとつですぞ！」

漁師 「金はないよりあった方がいいわな…」

花屋の女主人「フオートランさん本当にわたしたちも金持ちになれるのかい？」

フオートラン「お約束しますぞ。みなさんの年収は三倍ですぞ！」

ホテルの主人「私たちを騙そうというような下心はないんでね！」

フオートラン「もちろんですよ。ご主人。私はアナログ島の味方ですぞ！」

島民たち、相談を始める。

ホテルの主人も相談に参加する。

（手動ワイプ）

＃一四九 実写・パソコン画面（夜）

マウスをクリックするドスブイの手。

スコアのバーが走りだし、カラオケがスタートする。

再生。

マウスをクリックしてストップさせる、ドスブイの手。

ドスブイの声「うん。こんな感じね」
ビットの声「うんうん。いい感じ。いい感じ」

(手動ワイプ)

＃一五〇 カフェ・店内(夜)

相談をする、島民たち。

フォートラン「結論はできましたですか？」

島民たち、離れる。

フォートラン「それでは挙手で決定しましょうか。私が
国王になることを賛成する方、手を上げてくだ
さい。どうぞ！」

カフェの主人、漁師、花屋の女主人、ウエブ、
マウスの順で手を上げる。

ホテルの主人、一拍遅れて手を上げる。

フォートラン「すばらしい。満場一致ですな。では一本
ジメで：よーっ」

全員、手を合わせる。

「パッ！」

(F・O)

＃一五一 縮小版・全景(朝)

(F・I)

アナログ島に朝日が昇る。

波の音。

ドスブイの声「ビット。起きなさい。朝ですよ」

ビットの声「あ：ごめんなさいドスブイ様。わたし、
眠ってしまったわ：」

ドスブイの声「大丈夫ですよ」

ビットの声「歌はできあがったんですか？」

ドスブイの声「ええ。完成したわ」

(F・O)

＃一五二 実写・パソコン画面(朝)

ドスブイがマウスをクリックする。

音楽『教会においでよ』が始まる。

【歌六】

(約二分)

(O・L)

♯一五三 教会の前(朝)

教会の屋根に取り付けられた大きな屋外スピーカー。そこから流れる

(O・L)

【歌六】

♯一五四 教会・室内(朝)

ボーカル部分が始まり、マイクの前で熱唱するドスブイ。

後ろに立っているビットとホテルの主人。

【歌六】

(O・L)

♯一五五 教会の前(朝)

教会の屋根に取り付けられた大きな屋外スピーカー。そこから流れる音楽。

【歌六】

(O・L)

♯一五六 港(朝)

釣りをしている、ウエブとマウス。

音楽に反応する。

ウエブ 「なんだいこのいい感じの歌は」

マウス 「あっちだ」

釣り竿を捨てて歩き出す、マウス。

ウエブも後を追う。

【歌六】

(O・L)

♫一五七 教会・室内（朝）

マイクの前で熱唱するドスブイ。

【歌六】

（O・L）

♫一五八 海（朝）

小舟に乗って漁をしている、漁師。

歌に反応する。

漁師

「おお。いい歌じゃねえか」

【歌六】

（O・L）

♫一五九 花屋の前（朝）

歌に反応する花屋の女主人。

花屋の女主人「素晴らしい歌ね：」

そのままふらふらと歩き出す、花屋の女主人。

【歌六】

（O・L）

♫一六〇 ホテルの前（朝）

歌に反応している、ホテルの主人。

その前をふらふら通過して行く、花屋の女主人。

ホテルの主人もつられるように歩き出す。

カフェの主人「：素敵な歌だ：」

【歌六】

（O・L）

♫一六一 カフェの前（朝）

歌に反応している、カフェの主人。

その前をふらふら通過して行く、花屋の女主人とホテルの主人。

カフェの主人もつられるように歩き出す。
カフェの主人「：気になる歌だ：」

【歌六】

(O・L)

№一六二 教会の前（朝）

教会の屋根に取り付けられた大きな屋外スピーカー。そこから流れる音楽。

【歌六】

(O・L)

№一六三 教会・室内（朝）

マイクの前で熱唱するドスブイ。

【歌六】

マウス、ウエブ、花屋の女主人、カフェの主人の順で次々と入ってくる、島民たち。

その様子を見て喜ぶ、ビット。

歌が終わる。

(F・O)

№一六四 教会の前（朝）

木の陰から教会の様子をさぐっている、フォートラン。

頭をかかえる、フォートラン。

フォートラン「なんたることだ。あんな歌にだまされるなんて！まったくオタンコナスな島民たちだ。

チキシヨー！」

悔しがる、フォートラン。

(手動ワイプ)

№一六五 教会・室内（朝）

夢遊病者のように立っている、島民たち

(ウエブ、マウス、カフェの主人、花屋の

女主人、ホテルの主人)。

ドスブイ 「おはようございます。みなさん！」

島民たち 「（曖昧に）：おはようございます」

ビット 「（元気良く）おはよう！みんな！アナログ島

教会によろこそ！」

ビットの大きな声にハツとして我に返る、島民たち。

カフェの主人 「：ここはどこだ：」

ホテルの主人 「：おお。ビット：」

マウス 「どうしたんだらう？」

ウエブ 「歌だよ歌：」

花屋の女主人 「そうよ。素敵なお歌よ！」

カフェの主人 「ああ。歌：」

ドスブイ 「あの歌はパソコンを使って作ったものです」

マウス 「パソコンで？」

花屋の女主人 「そんなバカな」

遅れて入ってくる、漁師。

漁師 「ちきしょう！やけにいい歌だぜ。だれだい？

歌っていたのはよう！」

花屋の女主人 「あんた。タイミングずれてんのよ！ちよ

つと静かにしててよ」

漁師 「しまった！ここは教会じゃねえか！」

カフェの主人 「あ。そうか！おい！（急に怒って）また

俺たちをペテンにかけたな！この詐欺師！」

ビット 「静かにしてください。ここは教会です」

カフェの主人、ビットをにらんで。

ビット、おどけた仕草をカフェの主人にする。

ドスブイ 「花屋のご主人」

花屋の女主人 「なによ！」

ドスブイ 「あなたのお嬢さんはデジタル大陸にいる

そうですね」

花屋の女主人 「それがどうしたっていうの！あんた！」

ドスブイ 「わたしはあなたを娘さんに会わせてあげた

いと思います。パソコンを使って」

花屋の女主人 「そんなことできるわけないじゃないの」

ドスブイ、パソコンに近づき、キーボード

で入力しようとする。

☞一六六 実写・パソコン画面（朝）

ドスブイの実写版の手、キーボードでなにやら入力する。
インターネットにアクセスする画面。
更に続けてキー入力。
突然、花屋の娘が画面に現れる。

花屋の娘 「ママ！元気？」

島民たち 「（驚きの声）」

☞一六七 教会・室内（朝）

ドスブイのパソコンのモニターをのぞき込んで。

花屋の女主人 「あ！フローラ！あんた！元気なの？」
島民たちものぞき込んでいる。

☞一六八 実写・パソコン画面（朝）

花屋の娘 「わたしはとっても元気！元気過ぎて困ってるわ。こっちは本当に快適なのよ。ハンバガーもケーキも超ビッグサイズ！わたし太っちゃう、かもー。どうしましょう」

☞一六九 教会・室内（朝）

ドスブイのパソコンのモニターをのぞき込んでいる花屋の女主人と島民たち。

花屋の女主人 「まったく、あんたは相変わらずだよ。そんなこと聞いてんじゃないんだよ」

☞一七〇 実写・パソコン画面（朝）

花屋の娘 「じゃあ、ママは何が聞きたいの？あ、そうそう。こっちは男性のストリップとかあるのよ！ママ！すごいよ。超ビッグで驚いちゃった。キヤー！（手を上げて驚きの様子を再現）」

って感じ」

＃一七一 教会・室内（朝）

ドスブイのパソコンのモニターをのぞき込んで。
で。

花屋の女主人「もう、ますます心配になってきたよ！と
つと帰っておいで。いいね」

＃一七二 実写・パソコン画面（朝）

花屋の娘

「帰らないわよ。だって楽しいだもーん。絶対に一度、ママをこっちに連れてきたいわ。全てが信じられないと思うけど。腰抜かして死んじやうかもね。ほほほほ」

＃一七三 教会・室内（朝）

いつのまにか島民たちがパソコンの周りを取り囲んでいる。

ホテルの主人「一体、どうなってるんですか？これ…」

漁師 「花屋の娘はどこに隠れてんだい？え？」

漁師、花屋の娘を探している。

ドスブイ 「これは電話回線を通じて映像と音声を送っています」

ホテルの主人「これが電話？」

カフェの主人「これがどうして電話なんだよ？」

＃一七四 実写・パソコン画面（朝）

モニターの横にあるボール型のカメラとマイクを指す、ドスブイの手。

ドスブイ 「ここにカメラとマイクがあります。これを通じて映った映像と発した声を送るのです」

島民たち 「（驚きの声）」

＃一七五 教会・室内（朝）

ウエブ 「のぞきこんでいる、島民たち。」
マウス 「へんなカメラ」
「ボールみたいだ」

＃一七六 実写・パソコン画面（朝）

CD-ROMをトレイに乗せて起動させる。
CD-ROMをクリックして開くとカラー写真入りの百科辞典が開く。

島民たち 「（驚きの声）」
ドスブイ 「これは百科辞典です。そうですね…ビット

トという言葉調べてみましょうか」
検索機能を使って“ビット”を検索する。
たちどころに“ビット”が現れる。

【ビット】「意」情報の量を表す最小単位
……。

ビット 「わたしの名前ってそんな意味だったのね」
ホテルの主人 「私はそんな意味で名前をつけてないぞ。
リズムカルな女の子になるようにと…」
カフェの主人 「それはビット！」
ホテルの主人 「おー！私としたことが！」

＃一七七 教会・室内（朝）

島民たち 「（笑い声）」
島民たちがパソコンの周りを取り囲んでいる。
ドスブイ 「これまではほんの小手調べです」
カフェの主人 「次はなんだい？」
花屋の女主人 「あたしゃ、頭が混乱してきちゃったよ」
ドスブイ 「では…」
モニターに向き直る、ドスブイ。

＃一七八 実写・パソコン画面（朝）

データベースソフトを立ち上げる、ドスブイの手。
そこには競馬のデータ。

ドスブイ 「わたしはもちろんやりませんが、これは競馬などお好きな方にはたまらないものです。このデータがあると勝率七割アップするそうですよ」

漁師 「おう。それくれよ！」

ドスブイ 「パチンコとか宝くじとか他にもいろんな

使い方があります」

漁師 「（叫ぶ）おう！おう！」

§一七九 教会・室内（朝）

島民たち、パソコンの前で押合いへし合いモメている。

マウス 「俺にも触らせろよ」

漁師 「マウス！てめえは十年早いんだよ！さがり

やあがれ！」

マウス、言う通りさがる。

花屋の女主人 「あ。なにすんのよ！あんた。どさくさにまぎれて、わたしのお尻さわんないでよ」

カフェの主人 「だれがあんたのお尻なんか触るものか！」
花屋の女主人 「失礼しちゃうよ！こうみえてもわたしや、もてるんだよ！」

ホテルの主人 「嘘はいけません。嘘は…」

花屋の女主人 「なんだい！わたしが嘘つきだって言うのかい！」

ドスブイ 「さあさあ。喧嘩してる暇はありませんよ」

§一八〇 実写・パソコン画面（朝）

インターネットでお買物画面。
いろんな商品が次々と現れる。

商品が現れる度に島民たち歓声を上げる。

ドスブイ 「例えばこの商品が欲しければ、ここを押して、こうして、こうです。あとは商品の到着を待つばかりです」

島民たち 「（驚きの声）」

ウエブ 「あ。スケボーだ！」

マウス 「お菓子まである！」
ドスブイ 「これらのことはパソコンのごく初歩的な技術の一例に過ぎません。パソコンとは個人個人によって使い道がまったく異なります。それがパソコンの本質です：では、ウェブ君とマウス君」
ウェブマウス 「はい！」
ドスブイ 「次はもしもあなたたちが大学生だったらというお話です」
ウェブマウス 「大学生？」
(F・O)

☞一八一 想像図・キャンパス(昼)

立っているウェブとマウス。
突然始まる嘘臭い芝居。
マウス 「ウェブ、卒論進んでる？」
ウェブ 「うん。快調だよ」
マウス 「うそ！どうして？」
ウェブ 「ぼく、インターネットを使ってるんだ」

☞一八二 実写・パソコン説明画面(昼)

インターネット検索画面。
ウェブ 「ぼくの卒論のテーマはゴジラだろ」
マウス 「うん」
ウェブ 「そこでゴジラで検索するんだ。ここをこうして。ほい」
検索を開始する。
続々と現れるゴジラの膨大な情報。
マウス 「うわー！これ全部ゴジラ？」
ウェブ 「それでね。ほしい情報をこうやって切り取るんだ」
マウス 「うん」
ウェブ 「それでぼくの卒論に：」
ウェブの卒論用紙。
ウェブ 「こうやって貼りつける」

先程、切り取った情報がペイストされる。

☞一八三 想像図・キャンパス（昼）

立っているウェブとマウス。

マウス 「うわわ！反則だぞ！ウェブ」

ウェブ 「反則？」

マウス 「ぼくなんかいちいち図書館に行ってコピー

を取ってもう大変なんだから！」

ウェブ 「それって手で書いてるのかい？」

マウス 「ああ」

ウェブ 「アンビリーバブルだよ」

マウス 「ますます卒論が憂鬱になってきた（ため息）」

ジャンジャンとオチのSE。

(F・O)

☞一八四 教会・室内（朝）

腹を抱えて笑っている島民たち。

ドスブイ 「つづいてのもしものコーナーは：」

☞一八五 想像図・オフィス（昼）

簡単なパネル絵のオフィス風景（第一夜と併用）。

パネルの前に立っている、ホテルの主人、

カフェの主人、漁師、花屋の女主人。

ドスブイの声「ホテルのご主人、カフェのご主人、漁師

さん、花屋のご主人。みなさんが会社に勤めて

いるとします」

それぞれ歩き出して自分の机に座る。

花屋の女主人の机。

花屋の女主人「わたしは漁師とオフィスラブ中。みん

なにバレないように漁師にデートの約束す

るよ。こんな時はメールが一番」

花屋の女主人、モニターに向かう。

☞一八六 実写・パソコン画面（昼）

キーボード入力する、花屋の女主人の手。
花屋の女主人「漁師さん。今夜のご予定は？空いていた
らイタ飯でもどうかしら？お返事ちょうだい。
byお花ちゃん」
同じ内容の文章がモニターに写し出される。

☞一八七 想像図・オフィス（昼）

漁師の机。
モニターを見ている漁師。
「おお。メールが届いていやがるぜ！だれだ
い？わくわくするぜ」
漁師、キーボードに触る。

☞一八八 実写・パソコン画面（昼）

花屋の女主人のメールを開く、漁師の手。
漁師「お花ちゃんからじゃねえか。なににイタ飯
かい：」

漁師
漁師の手、キーボード入力を開始する。
「お花ちゃん。今夜は空いてるけど、イタ
飯はパスだぜ。おいらのお気に入りの銀座
の寿司屋でデートはどうだい。目ん玉飛び
出るくらい、うめえぞ。by魚ちゃん」
同じ内容の文章がモニターに写し出される。

☞一八九 想像図・オフィス（昼）

カフェの主人の机。
カフェの主人「そうだ。社長に提案したいことがあった。
こんな時は社長に直接メールだ」
キーボードに向かう、カフェの主人。

☞一九〇 実写・パソコン画面（昼）

キーボード入力するカフェの主人の手。
カフェの主人「社長への提案書。」

その一。花屋と漁師は不倫中です。
その二。会社のパソコンを使ってメールを送り合っています。
その三。いい年してみっともないので叱つてやってください。
by カフェの主人」
同じ内容の文章がモニターに写し出される。

§一九一 想像図・オフィス（昼）

ホテルの主人の机。机の上には「社長」の札。
ホテルの主人「私は社長。だから忙しい。だけど情報は大切だからこまめにメールチェック」
ホテルの主人、キーボードに向かう。

§一九二 実写・パソコン画面（昼）

カフェの主人のメールが開かれている。
ホテルの主人「なになに。不倫ですと！それは大変だ。
ひとこと言っておこう」
キーボード入力する、ホテルの主人。
ホテルの主人「おい。君たち。恋愛は自由だが会社が終わってからやりなさい。今度、仕事中心にやった減給です！by 社長」
同じ内容の文章がモニターに写し出される。

§一九三 想像図・オフィス（昼）

漁師の机。

社長のメールを読んでいる。
漁師 「やばい！バレた」

花屋の女主人の机。
社長のメールを読んでいる。
花屋の女主人「チクったわね」
花屋の女主人、立ち上がる。

カフェの主人の机。
花屋の女主人がつかつかと現れ、カフェの主人に近づき頭を殴る。

花屋の女主人「あんた！」
カフェの主人「あたっ！」
ジャンジャンとオチのSE。

㊦一九四 教会・室内（昼）

先程の状態のまま。

島民たち、腹をかかえて大笑いしている。

ウエブ 「（マウスに）漁師さんと花屋さんはラブ

ラブだったんだ」

マウス 「（ウエブ）怖いカップルだね」

ドスブイ 「ここでまではパソコンの便利なお話でした。しかし、こんなに便利なパソコンにも大きな欠点があります。それはパソコンは家電ではないということです。つまり、スイッチを押しただけでは意のままになかないということ。パソコンのつきあいは結婚生活に似ています」

㊦一九五 図解・パソコンと人間

教育的音楽が始まる。

● 図1 一人間とパソコン妻。Aタイプは喧嘩している。Bタイプは仲良くしている、の図。

ドスブイ 「：すぐに離婚するか良い伴侶となるのか。その違いはお互いの立場の尊重の度合にあります」

ドスブイ ● 図2 パソコン妻に説教しているの図。
「相手は機械だからといって邪険に扱う。当然、パソコンは思い通りになりません。あなたはそのことに腹をたててパソコンに言うことでしょうか。『お前はバカだ！使えないものにならない』と。」

ドスブイ

● 図3ーパソコン妻が悩むの図。
「しかし、パソコンはあなたが何をしようとしているかわからないだけなのです。パソコンはあなたの望みを適えようと懸命に尽くします。しかし、あなたがあまりにも曖昧であるためにわからないのです」

● 図4ーパソコン妻と人間のなごやかなお茶の間の図。

ドスブイ

「ひとつひとつ丁寧にパソコンに伝えることです。決してあせってはいけません。ゆっくりそれを積み重ねるのです。はやがて疎通の欠落は補われ、あなたとパソコンは良き伴侶となるのです」

(F・O)

◆一九六 教会・室内（昼）

先程の状態のまま。

島民たち、理解できないようので首をひねっている。

ホテルの主人「パソコンが奥さんですか：」

漁師

「よう。パソコンてのは夜のお相手もしてくるのかい？先生」

ドスブイ

「（少し怒って）漁師さん。ここは教会ですよ」

漁師

「ああ：わりい」

島民たち、笑う。

ドスブイ

「パソコンが自分にとって良きパートナーになるかはとにかく慣れることです。どうぞお好きなように触ってみてください。もし故障したら、わたしが直しますからご安心ください。さあ、みなさん。どうぞ」

全員

「（やけに素直に）はい」

パソコンで遊び始める、島民たち。

島民たちの驚きの声、続々。

ドスブイ、ビットを見る。

ビットもドスブイを見る。

(手動ワイプ)

◆一九七 教会の前(昼)

入口のドアから室内を覗いている、フォートラン。

フォートラン「くそう！やけに楽しそうじゃねえか！バ

カヤロウ！」

悔しがるフォートラン。

(手動ワイプ)

◆一九八 教会・室内(昼)

パソコンで遊んでいる、島民たち。

ビット 「そうだ！フォートラン！」

ウエブとマウス、ハツとしてビットを見る。

ウエブ 「じゃあ、フォートランは悪者なのか？」

マウス 「フォートランだ！」

漁師 「あいつ、俺たちを騙しやあがつたな！」

カフェの主人「フォートランは金儲けしようとしてたんだな！」

花屋の女主人「そうよそうだわ！」

漁師 「おう！みんなであの男を吊るしあげに行こうぜ！」

立ち上がる、漁師。

他の島民たちも全員、立ち上がる。

ドスブイ 「(大きな声で)みなさん。待ってくださいさい！」

島民たち、一斉にドスブイを見る。

ドスブイ 「：彼の名前はフォートラン博士：」

フォートランの回想の音楽が始まる。

島民たち 「博士？」

ドスブイ 「今から三十年ほど前のことです：」

(O・L)

◆一九九 回想・研究室(昼)

白黒画面。
若き日のフォートラン（襟足を使って前髪
を作ります）。
大型コンピュータの前で忙しく働いている、
フォートラン。

ドスブイの声「彼はデジタル大陸の文化を切り開いた優
秀なテクノロジストでした。天才博士とし
て名声を欲しいままにしていたのです」
（O・L）

＃100 回想・研究室（昼）

前シーンより色を感じる白黒画面。
荒れ果てた研究室。破壊された大型コンピ
ータ。フォートランの頭は現在と一緒。
机の上に足を投げ出してバーボンを瓶ごと
ラッパ飲みする、フォートラン。

ドスブイの声「…しかし、時代は大型コンピュータから
パーソナル・コンピュータに変わりました。
やがて彼は若いパソコン派におされて人
気をなくしてしまいました。若いパソコン
一派たちは彼を時代遅れとあざ笑い、その
屈辱に耐えきれなくなってしまうた彼は反
体制派にまわったのです」
（O・L）

＃101 回想・研究室（昼）

前シーンより更に色を感じる白黒画面。
荒れ果てた研究室。フォートラン自作コンピ
ータを使ってハッキング行為を行っている。
壁に悪魔の影。

ドスブイの声「…ハッキング行為をしたり、パソコン・
ウイルスをインターネットでばらまいたり。
確かに彼はひどい事をしました」
（O・L）

＃二〇二 教会・室内（昼）

真面目にドスブイの話聞く、島民たち。
熱く語る、ドスブイ。

ドスブイ 「：しかし、わたしにはわかるのです。フォー
トラン博士の本当の気持ち」

＃二〇三 図解・フォートラン派とパソコン派

木に描かれた図解・人間とコンピュータの
関係。

- 一） フォートラン
- 二） パソコン一派

ドスブイの声「：彼はコンピュータと人間の関係は対等
なりレーションシップであるべだと考えま
した。しかし、若いパソコン派はコンピ
ュータをただの道具としか考えていません。
そこに存在するのは使用人と召し使いの関
係です。だからデジタル大陸は非常に無機
質で愛のないテクノポリスになってしまっ
たのです」
（O・L）

＃二〇四 回想・研究室（昼）

前シーンより更に更に色を感じる白黒画面。
荒れ果てた研究室。

髪を振り乱して「NO！NO！」というアクシ
ョンをしている、フォートラン。

ドスブイの声「：彼はその状態を警告し続けていたので
す」
（O・L）

＃二〇五 教会・室内（夕）

真面目にドスブイの話聞く、島民たち。
熱く語る、ドスブイ。

ドスブイ 「彼はアナログとデジタルの調和を考え、
また実行できる世界で唯一人のテクノロジ
ストなのです。わたしたちが彼を受け入れ
れば、彼もわたしたちを受け入れてくれる
ことでしょう。何故ならば……」
(O・L)

§106 教会の前(夕)

入口のドアから室内を覗いている、フォートラ
ン。

ドスブイの声「…彼、フォートラン博士は本当はとても
心のやさしい方だからです。そして彼の技
術はアナログ島とデジタル島の調和に絶対
に必要なものなのです！」
フォートラン、涙を拭く仕草。

フォートラン「ちくしょう。泣けて来たぜ…本当はセン
チメンタルな俺のバカヤロー！」
フォートラン、泣きながら走り出す。
(F・O)

§107 教会・室内(夕)

ドスブイを取り囲む、島民たち。
漁師 「よう！よう！ドスブイさんよう。さつきから
長々と説明してるけど、俺にはチンプンキャン
ンなんだよ。そんな説教臭い昔話はどうでも
いんだよ。俺はあの男に一発くれてやりてえだ
けなんだ！」

花屋の女主人「そうだよ！わたしの年収はどうなるんだ
い」

カフェの主人「フォートランに制裁を！」
ホテルの主人「フォートランに制裁を！」

島民たち 「フォートランに制裁を！」

盛り上がる島民たち。
困っている、ドスブイ。
漁師、武器を探す。

漁師

「おお！その柵は武器になりそうだぜ！」
中央の柱に向かって走る、漁師。

(F・O)

§二〇八 港(夕)

海を見ながらしんみりしている、フォートラン。
カメモの声。

音楽が始まる。フォートランの歌う

『俺が間違っていたのか』が始まる。

【歌七】

(約六〇秒)

フォートラン、大きなアクションで苦悩する
ように踊って歌う。

歌の最後にモートルがフレーム・インする。

(F・O)

§二〇九 港(夕)

モートル、フォートランに近づく。

モートル 「命のある限り希望はあるのじゃ」

モートル、フォートランの肩をたたく。

振り向く、フォートラン。

フォートラン 「：爺さんか：」

何にも言わずにフォートランを見る、モートル。

フォートラン 「爺さん：あんた、いい顔してんな。：好

きだぜ：へへへ」

モートル、フォートランの肩をもう一度たたく。

自然に教会方向へ歩き出す、二人。

(O・L)

§二一〇 教会の前(夕)

歩いてくる、フォートランとモートル。

モートル、フォートランの背中を押す。

モートル 「苦痛は短かく、喜びは永遠であるのじゃ」

フォートラン「：そう願いたいな…」

歩き出す、モートル。

見送る、モートル。

立ち止まって振り向く、フォートラン。

フォートラン「長生きしろよ。爺さん…」

軽く手を上げて挨拶した後、再び歩き出す、

フォートラン。

(手動カレード)

§一一一 教会・室内(夕)

漁師、中央の柱の柵を取る。

漁師

「これで叩きのめしてやるぜ。おめらも武器

を探せよ！」

他の島民たちも中央の柱に近づく。

ドスブイ

「やめなさい！その柱に触ってはいけま…」

(手動カレード)

§一二二 教会の前(夕)

大きな音と共に崩れ始める教会の中央の燈。

島民たちの悲鳴。

フォートラン、慌てて室内に走る。

§一二三 教会・室内(夕)

スローモーション開始。

砂ぼこりをあげながら倒れる中央の柱。

逃げ惑う、島民たち。

ビットが逃げ遅れて柱の下敷きになりそう

になっている。

走って入って来たフォートラン、その柱を

手で押さえようとす。

そのすきにビット、間一髪で逃げる。

フォートラン、柱の重さに耐えきれず、下敷き

となる。

ノーマル速度となる。

ドスブイ 「フォートラン博士！」

フラッシュ・バック。

ビットの顔。

ホテルの主人の顔。

ウエブの顔。

マウスの顔。

カフェの主人の顔。

花屋の女主人の顔。

漁師の顔。

(F・O)

§二四 メイン・ストリート(タ)

誰もいない、メイン・ストリート。

強い風が吹いている。

飛んで行く紙くず。

風の音。

(O・L)

§二五 教会・室内(タ)

崩壊は終わっている。砂ぼこりが立ち込める室内。

柱の下敷きになっている、フォートラン。

そのまわりに全員、集まっている。

フォートラン 「(死にそうな声で) : ドスブイさん。あ

んたには負けたよ : 俺の夢の続き、あんたに預けたぜ」

ドスブイ 「夢の続き？」

フォートラン 「このアナログ島をこのままの : 静かで、のんきな島のまま : デジタル大陸に行くんだ

:」

ドスブイ 「？」

フォートラン 「 : この島は俺の理想郷なんだ。 : アナロ

グとデジタルが仲良く暮らす : 島 : 逃げち

ゃあ、だめだ : 逃げちゃ : アナログ島にス

クリューをつけて : 島ごと : 船のように走

らせるんだよ：ボヘミアンみたいで：いい
だろ：スクリューは用意してある。港に隠
してあるんだ：」

ドスブイ 「しつかりして！フォートラン博士」

フォートラン、力尽きて倒れる。

ドスブイ 「博士！」

フォートランの体が少し動く。

フォートラン 「：懺悔するのを：忘れた：」

ドスブイ 「懺悔？」

フォートラン 「：私は素直な気持ちを失い、悪事を重ね

てしまった：こんな私でも天国に行けます

かい？ドスブイさんよ」

ドスブイ 「神は寛大です。悔い改めれば、もちろん

誰でも天国に行けますよ。フォートラン博

士」

フォートラン 「そうか。では：悔い改めるぞ：うっ」

動かなくなる、フォートラン。

(F・O)

§二六 丘の道（夜〜朝）

(F・I)

島民全員がフォートランの棺桶を担いで丘の
道を昇る。

夜はやがて朝日に変わる。

しめやかな音楽。

(O・L)

§二七 丘の道の横（朝）

フォートランの墓と書かれた簡単なお墓。

島民たち、並んで立っている。

ドスブイ 「安らかに眠り給え」

祈りのポーズをする、ドスブイ。

島民たちも同じように祈りのポーズをする。

(移動)

㊦二二八 モートル家・前（朝）

小屋の煙突からモクモクと煙が出ている。その前に立って空を見上げている、モートル。逆光。シルエットのモートル。

モートル

「（ぶつぶつと）：他国を見れば見るほど自国を愛すようになるのじゃ：」

（移動）

㊦二二九 丘の道の横（朝）

島民たち、並んで立っている。

ドスブイと島民たち、一斉にモートルの方を見る。

ドスブイ

「：このアナログ島は旅立つのですね。モートル様」

（移動）

㊦二三〇 モートル家・前（朝）

シルエットのモートル。

モートル 「（ぶつぶつと）：亀の年を鶴がうらやんでおるぞ：。或る者の愚かな行いは他の者の財産となるのじゃ」

（移動）

㊦二三一一 丘の道の横（朝）

ドスブイと島民たち、並んでモートルを見ている。

ドスブイ

「わかりました！モートルさま」

（F・O）

㊦二三一二 港（朝）

軽快な音楽。

フォートランの遺言のスクリーンを探す島

民たち（ドスブイ、ビット、ホテルの主人、漁師、カフェの主人、ウエブ、マウス、花屋の女主人）。

漁師

「あったぞ！」

漁師、スクリューを発見して大きく手を振る。他の島民たち、漁師のところへ駆け寄る。大量のスクリューが隠されている。

ビット

「すごい数だわ」

ドスブイ 「みんなで手わけをしてスクリューを取り付けましょう！」

島民・男子

「おお！」

島民・女子

「イエイ」

（O・L）

＄二二三 岬A（朝）

島にスクリューを取り付ける、漁師。

（O・L）

＄二二四 岬B（朝）

島にスクリューを取り付ける、ホテルの主人。

（O・L）

＄二二五 岬C（朝）

島にスクリューを取り付ける、ウエブとマウス。

（O・L）

＄二二六 岬D（朝）

島にスクリューを取り付ける、花屋の女主人。

（O・L）

＄二二七 岬E（朝）

島にスクリューを取り付ける、カフェの主人。

(O・L)

㊦二三八 岬F(朝)

島にスクリューを取り付ける、ビット。

ビット 「完了しました！ドスブイ様」

(O・L)

㊦二二九 灯台の上(朝)

灯台の上に立ってスタートの旗を持っている、ドスブイ。

大きく旗を振る。マイクロソフトの旗に似ている。

ドスブイ 「(叫ぶ) 出発します！」

㊦二二〇 岬A(朝)

スクリューのエンジンをスタートさせる、漁師。

エンジン音。

(O・L)

㊦二二二 岬B(朝)

スクリューのエンジンをスタートさせる、ホテルの主人。

エンジン音。

(O・L)

㊦二二三 岬C(朝)

スクリューのエンジンをスタートさせるウエブとマウス。

エンジン音。

(O・L)

㊦二二四 岬D(朝)

スクリューのエンジンをスタートさせる、
花屋の女主人。
エンジン音。
(O・L)

§一三四 岬 E (朝)

スクリューのエンジンをスタートさせる、
カフェの主人。
エンジン音。
(O・L)

§一三五 岬 F (朝)

スクリューのエンジンをスタートさせる、
ビット。
エンジン音。
音楽 O U T。
(O・L)

§一三六 モートル家・前 (朝)

小屋の煙突からモクモクと煙が出ている。
その前に立って空を見上げている、モートル。
逆光。シルエットのモートル。
強い風。

モートル

「(ぶつぶつと) : 老いゆく時間はすべての
の真実を伝えるぞ : いかなる結果も理由な
きものなし。すべての結果はその原因を有
し、それゆえに必然なり」
風でモートルの帽子が飛び、舞う。
たなびくモートルの長髪。
(F・O)

§一三七 縮小版・全景 (朝〜夜)

ドスブイの歌う『希望の船出』が始まる。

【歌二】

動き出す、デジタル大陸に向かってアナログ島。
キャスト&スタッフロール。
カメラ、ゆっくり引いて行く。
引いて行くとアナログ島がカメの形であることがわかる。
やがて朝は夕暮れになり夜となる。
デジタル大陸にネオンが灯り、花火が上がる。
ゆっくり進み続ける、アナログ島。
約六〇秒。

(F・O)

【おわり】